

福岡県鞍手郡宮田町石炭記念館所蔵炭坑用具目録

秀村, 選三
九州大学石炭研究資料センター

荻野, 喜弘
九州大学石炭研究資料センター

東定, 宣昌
九州大学石炭研究資料センター

今野, 孝
福岡大学商学部

<https://doi.org/10.15017/13740>

出版情報 : エネルギー史研究 : 石炭を中心として. 13, pp.1-31, 1984-12-25. 九州大学石炭研究資料センター

バージョン :

権利関係 :

福岡県鞍手郡 宮田町石炭記念館所蔵炭坑用具目録

秀村選三 荻野喜弘
今野 孝 東定宣昌

I. 貝島炭礦と宮田町石炭記念館

貝島炭礦は、明治17年（1884）に貝島太助が2300坪の坑区を買収して以来、昭和51年8月に閉山するまで、町をささえて来た基幹産業として、政治・経済にかぎらず、教育、文化を含めて、あらゆる面にわたって、まさに宮田町の中核として存在していた。桐野・菅牟田・満之浦地区を中心に、多くの鉱業所をもち、最盛期には年産170万トンを出炭し、従業員1万3000人余、家族を含めて4万人を越える地域社会を形成していたといわれる。

しかしその貝島炭礦も、エネルギー革命の波のなかで、経営危機の深化を避けることができず、昭和35年に第一次合理化をはじめたが、回生の策であった翌36年からの露天掘への進出も効を奏さず、昭和48年の坑内掘の終掘につづいて、昭和51年8月5日（1976）には露天坑も閉山し、ついにその90年余にわたる歴史を閉じた。

この貝島炭礦の閉山にあたり、宮田町では、「いまこそ貝島炭礦と、これに関連あるいろいろな記録を遺して置くことは、現代に生きる者の責務」という視点から、石炭記念館の設立を決め、昭和49年春に準備が開始され、翌50年9月から本格的な活動にはいった。関係者の献身的な努力と、炭鉱にかかわってきた人びとの支援によって資料が収集された。

宮田町石炭記念館は、1. 貝島炭礦の創業から閉山まで 2. 特筆すべき私学の記録 3. 貝島炭礦を支えた労働者の記録 を設立にあたっての3つの柱とし、貝島炭礦株式会社の膨大な資料、炭坑用具・機械類、写真、絵画など各種の資料を収集し、器材室・「写真で見る貝島炭鉱」室・住民参加による炭礦絵画室・貝島私学室を設け展示している。（以上、井上芳邦「貝島炭礦の足跡と宮田町石炭記念館」『筑豊炭鉱遺跡研究会報』第2号による）

II. 宮田町石炭記念館所蔵炭坑用具の特色

宮田町石炭記念館所蔵の炭坑用具の特色として、つぎの点があげられる。

1. 収集されたもののほとんどが、貝島炭礦で使用されていたものであること。

前述の設立経過からもわかるように、貝島炭礦で使用されていたものがほとんどである。貝島炭礦の従業員には二代・三代と勤めた人も少なくなく、このことは、実際に使用していた人によって持ち込まれたものも多いこととあわせて、それぞれの用具類についての情報を比較的得やすい状況にあることを示しているといえるであろう。

2. 収集・展示されているものが、体系的ではないが、一応手掘り時代の手労働の用具から、近代的な鉱山機械まで含まれていること。

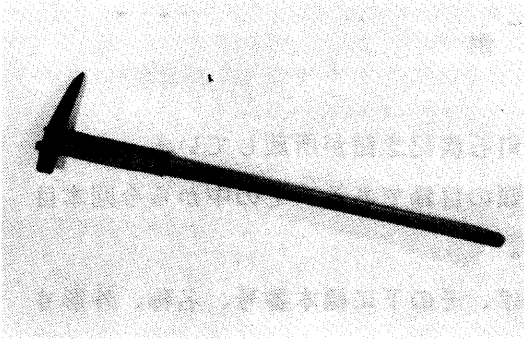
これは、1で述べたように一応対象が貝島関係に絞られていること、貝島炭礦の最終閉山時期が比較的遅かったことなどの諸条件をあげることができる。ところで閉山後の旧産炭地域の鉱害復旧と当該地域の再開発により、一方では容赦なく炭鉱の施設・設備等が地上から払拭されていっており、宮田町も例外ではない。しかし一方でこれらの工事にともない、たとえば初期の坑口が発見されて記録されたり、また硬山の切削工事現場からは木製炭車が発掘されて記念館に保存されるなど、関係者の努力と協力によるところも大きいと言わなければならない。

宮田町石炭記念館所蔵の炭坑用具は、以上のような特色を持っているものであるが、前述のように、宮田町石炭記念館は炭坑用具のみを対象として収集・展示するものではない。そのため、施設や費用、その他多くの制約があることも事実である。しかし同石炭記念館所蔵の炭坑用具は、今後聞取調査等によって、それぞれの用具についてのより詳細な情報を得ることができるものとして、あるいはひとつの炭鉱における用具・機械類の変遷をみるうえでも、重要な資料を提供するものとなるであろうと思われる。

凡 例

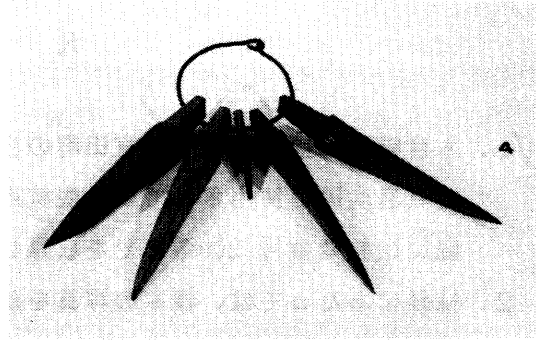
1. 本目録は、福岡県鞍手郡宮田町の宮田町石炭記念館が所蔵している、主として貝島炭礦で使用されていた炭坑用具類の目録である。その中から今回本目録には整理番号 200番までを収録した。
2. 採録にあたっては、標本の写真をかかげ、その下に標本番号、名称、外形寸法、型式、製造番号、製造者、製造年月日、素材、および備考・注記事項等の項目を必要に応じて掲載した。
 - a. 名称については、同記念館に展示されているものについては、その表示により、同記念館の井上・内野両氏からの聞き取りによって補った。別称や俗称などは（ ）内に、また仮標目には[]を付けて示し、また名称のわからないものは、[不詳]とした。
 - b. 機械・器具類については、その銘板等によって型式、製造番号、製造者、製造年月日等を掲載したが、これらのないもの、および判読しがたいものは掲載しなかった。
 - c. 外形寸法については、調査時に作図をして、詳細な計測を行なっているが、本目録には、主要な数値を掲げるにとどめた。数値は、単位はミリメートル、基本的には タテ×ヨコ×高サ で示したが、必要に応じて計測部位を適宜表示したことがある。また外形寸法の記載を省略したものもある。
3. 本目録の作成には、秀村選三、東定宣昌、荻野喜弘、今野孝があたり、特に宮田町石炭記念館館長井上芳邦氏および内野健男氏、同町町史編集室大谷秀樹氏の協力を得た。また写真撮影および計測には、西村卓氏の協力を得た。

(付記) 本目録は、昭和58～59年度文部省科学研究費補助金 一般研究(C)
「九州産炭地域における炭坑用具の目録作成とその産業考古学的研究」
による成果の一部である。



1. ツルハシ

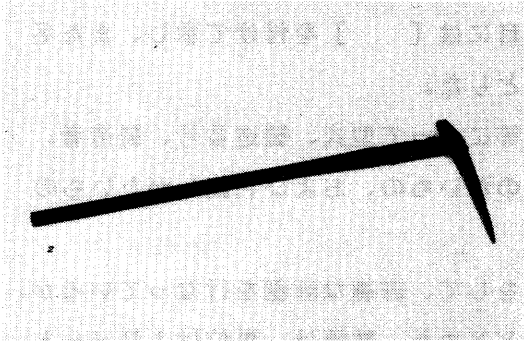
柄長 875 刃長 225



4. ツル穂先

穂先 4本 長さ 215-204

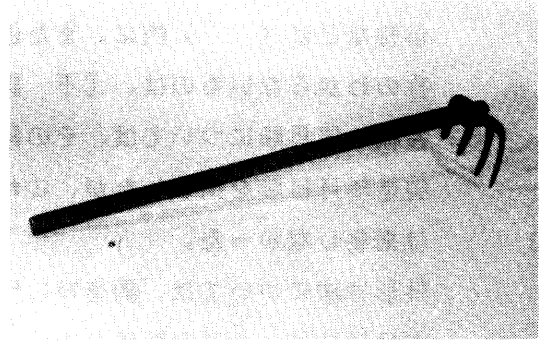
クサビ 1本 長さ 96



2. ツルハシ

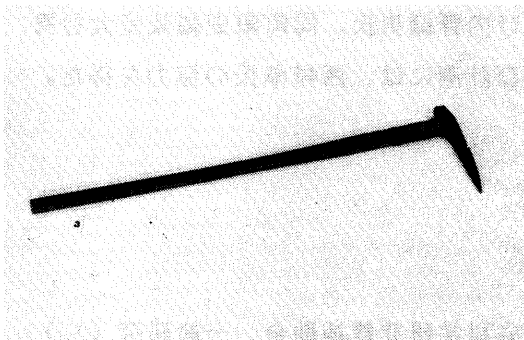
柄長 900 刃長 340

備考-「保安」の彫刻あり、改良ツルを改造



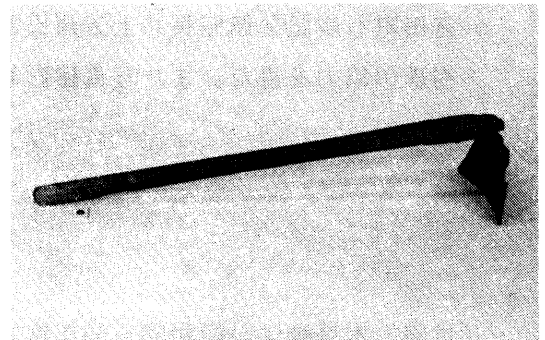
5. ガンツメ

柄長 862 刃長 110 刃幅 230



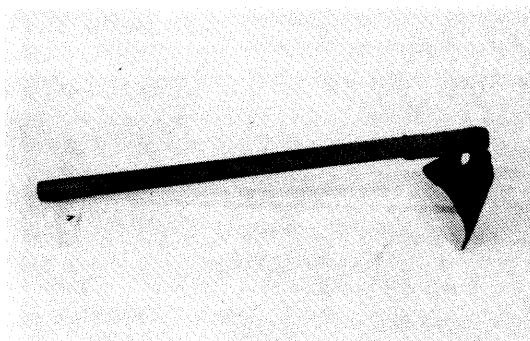
3. 改良ツル

柄長 911 刃長 255



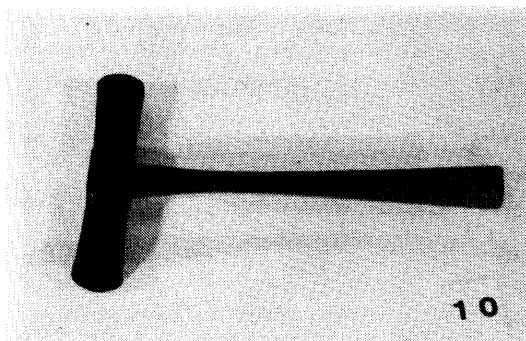
6. カキ板

柄長 725 刃長 98 刃幅 232



7. カキ板

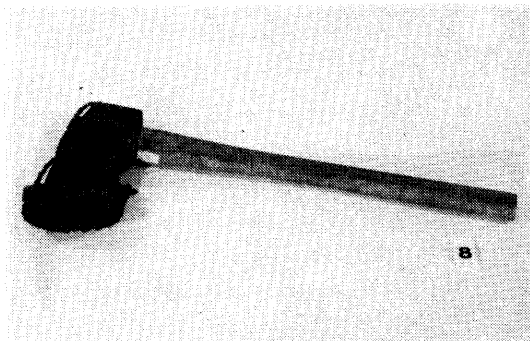
柄長 672 刃長 103 刃幅 300



10. ボンコシ

柄長 315 頭部 182 × 35

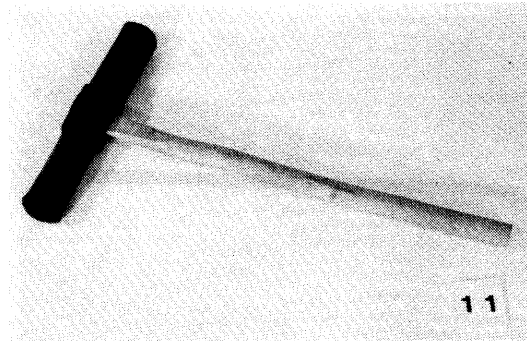
備考-昭和54年 6月13日、旧二坑の阿賀野氏
(69才)より寄贈



8. 斧 (ヨキ)

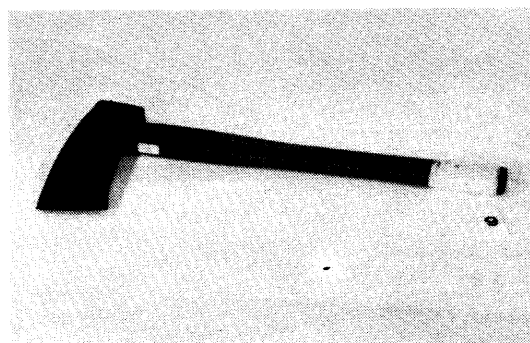
柄長 450 刃長 205 刃幅 70

備考-棕カバーつき、「二代目六助」の銘あり



11. セットウ (節頭)

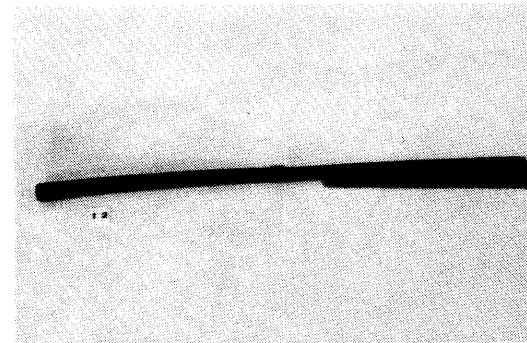
柄長 400 頭部 210 × 33



9. 斧 (ヨキ)

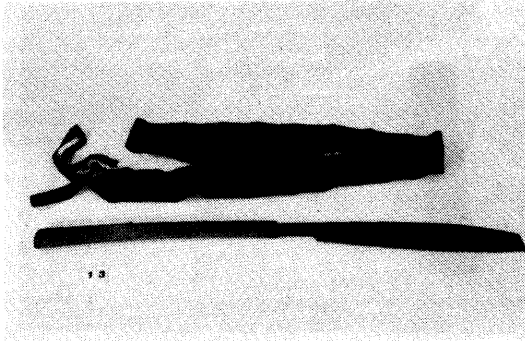
柄長 452 刃長 195 刃幅 70

備考-柄尻ビニール・テープ巻き、「村光」の
銘あり



12. 角 鋸

刃長 480 刃幅 80

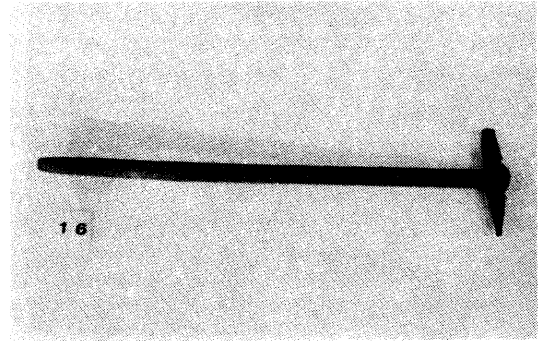


13. 成切り(鋸)

柄長 450 刃長 470 刃幅 45

製造 「文十利久」

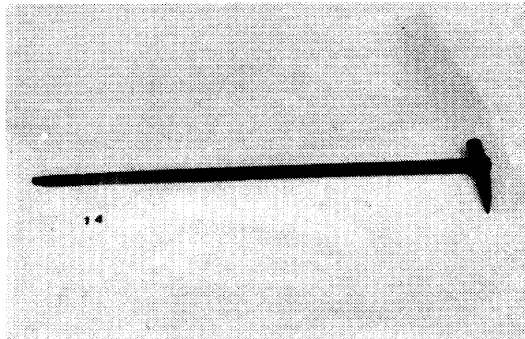
備考-刃の部分はゲートルでカバーされている



16. ピッケル

柄長 548 刃長 148

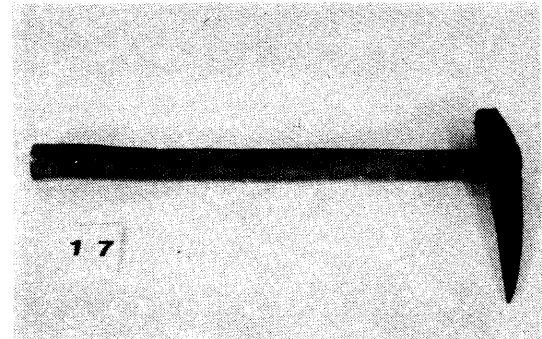
備考-刃に「野口」の銘あり



14. ピッケル

柄長 782 刃長 153

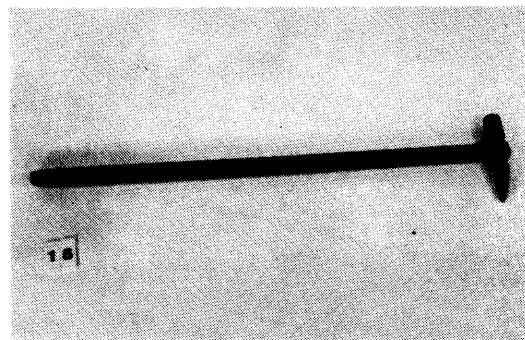
備考-柄の先端に金具付



17. ボタワリ

柄長 370 刃長182

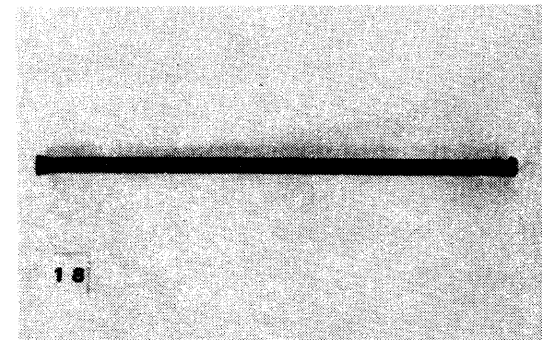
備考-刃に「カサ」の彫込みあり、飯森基市氏提供



15. ピッケル

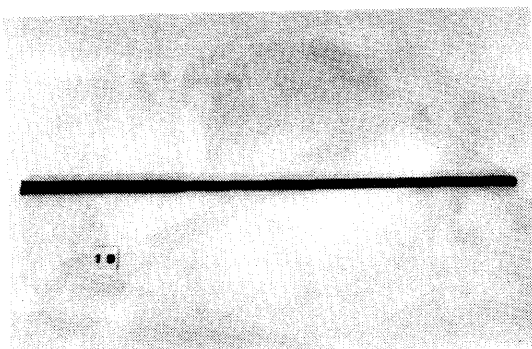
柄長 634 刃長 132

備考-柄に50mm毎に釘の目盛り付き

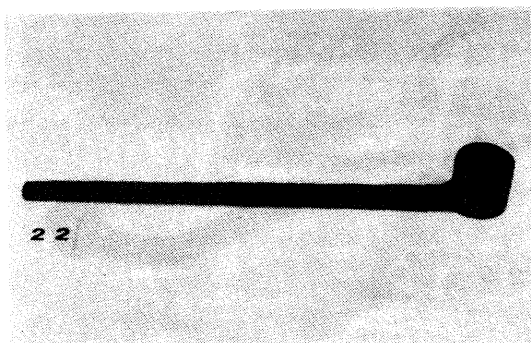


18. 穴割鑿(ハマグリノミ)

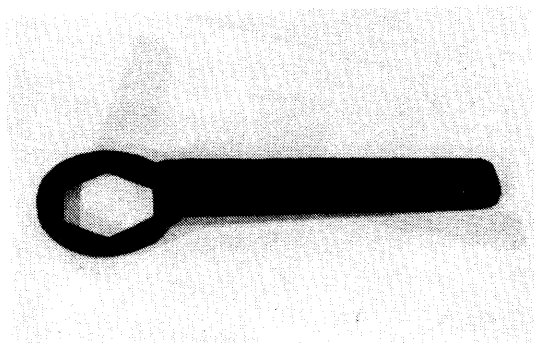
535 × 18φ 刃幅 22



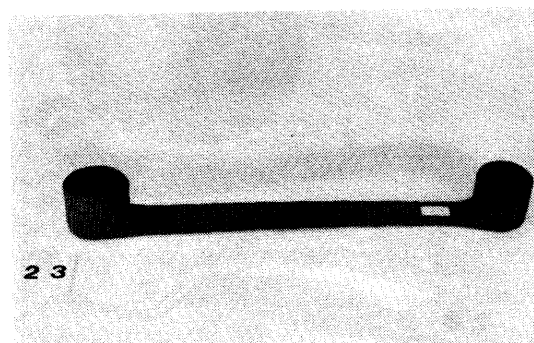
19. 穴剥整 (ラッパノミ)
845 × 20φ 刃幅 25



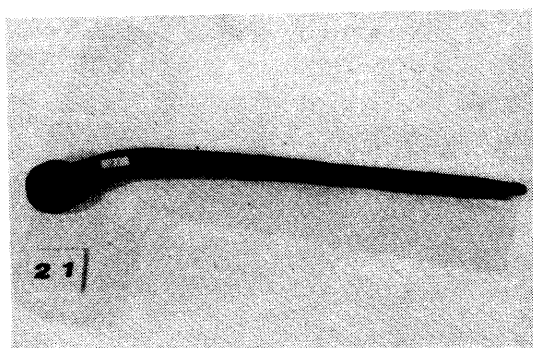
22. スパナ
432 #32



20. スパナ
240 × 70 #46



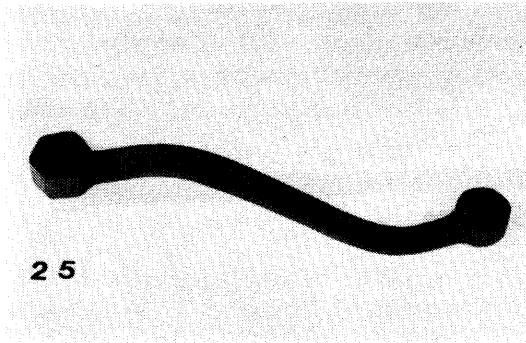
23. メガネレンチ
380 #32, #38



21. スパナ
410 #32



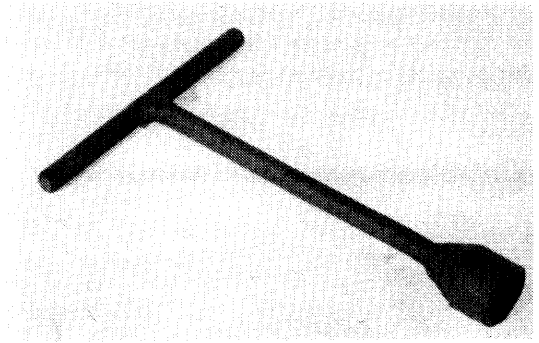
24. メガネレンチ
385 #28, #34



25. メガネレンチ

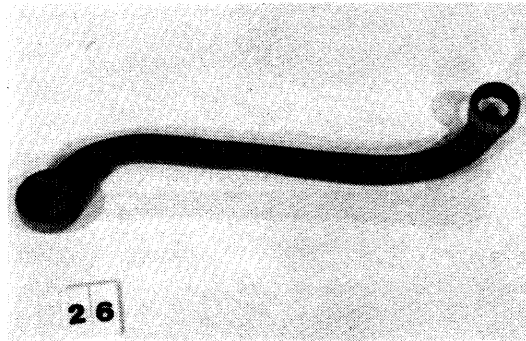
353 #28, #34

備考-「武本」の彫込みあり



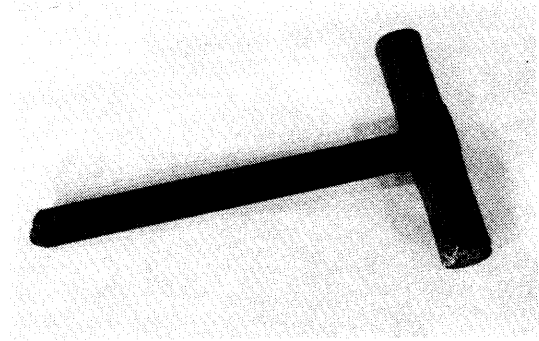
28. ボックスレンチ

112 × 168 #20



26. メガネレンチ

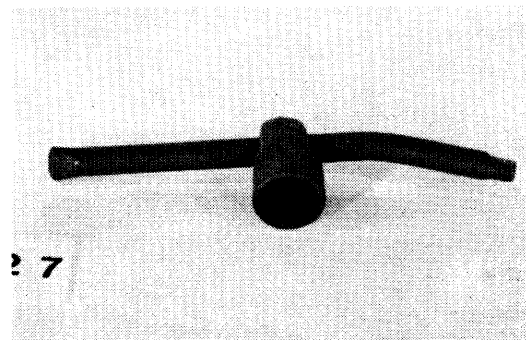
410 #30, #40



29. ボンコシ

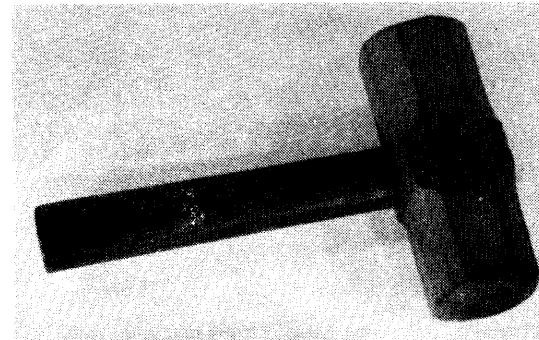
柄長 325 頭部 190 × 38φ

備考-車道釘打ち専用、柄の部分破損



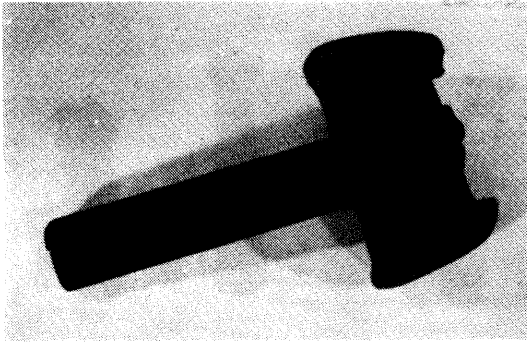
27. ボックスレンチ

270 × 63 #30



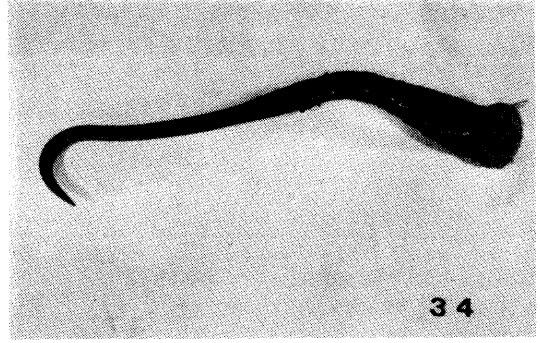
30. 玄翁

柄長 220 頭部 140 × 50



31. 玄翁

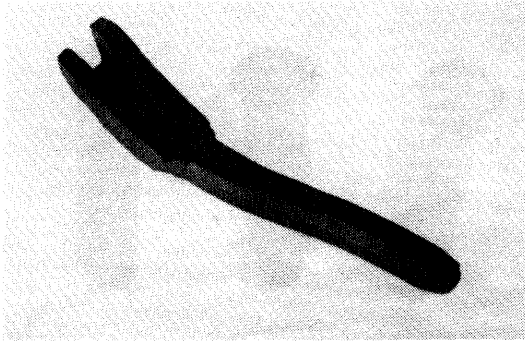
柄長 210 頭部 115 × 70



34. 掉取用コース鉤

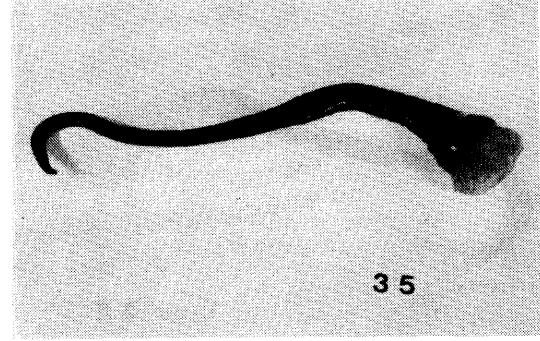
柄長 120 鉤部 222 × 87

備考-握りは太木綿糸を巻き、その上に赤黒のビニール・テープを巻く



32. 牛の爪

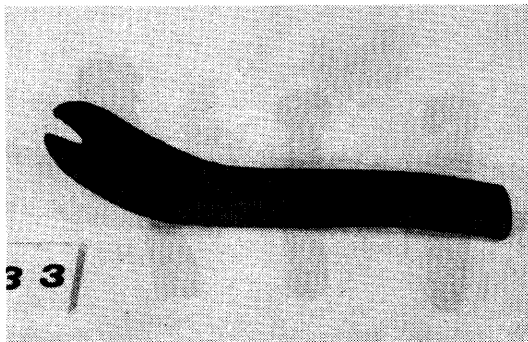
270 × 51



35. 掉取用コース鉤

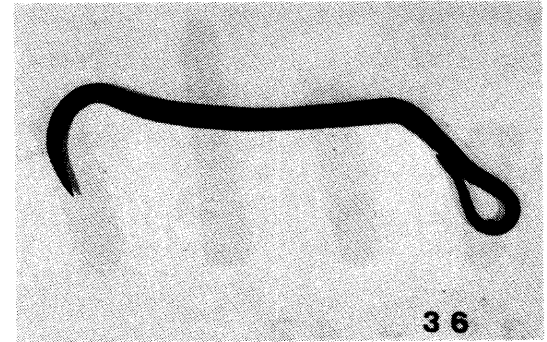
柄長 105 鉤部 217 × 71

備考-34と同じ、黒テープ巻き



33. 牛の爪

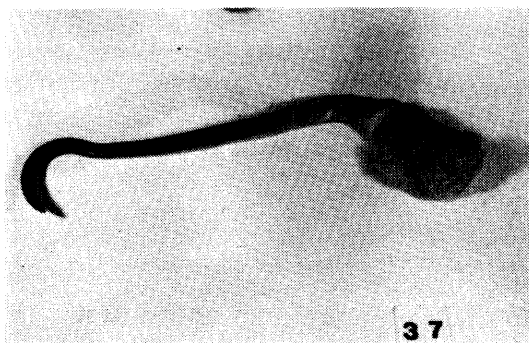
237 × 50



36. 掉取用コース鉤

柄長 115 鉤部 235 × 94

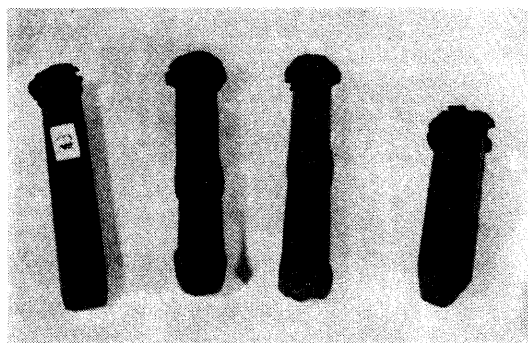
備考-握りの部分未加工



37. 棹取用コース鉤

柄長 105 鉤部 233 × 93

備考-34と同じ、ただし包帯巻き

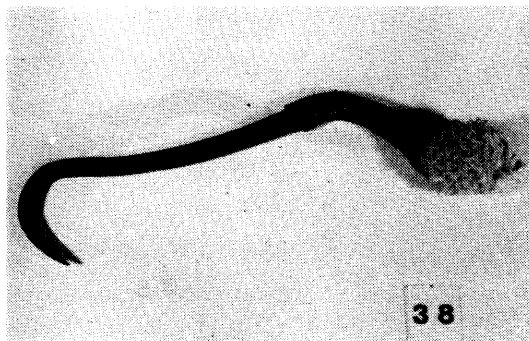


43. 145 × 20 文字面-「5」

44. 140 × 20 文字面-「四」

45. 148 × 21 文字面-「一」

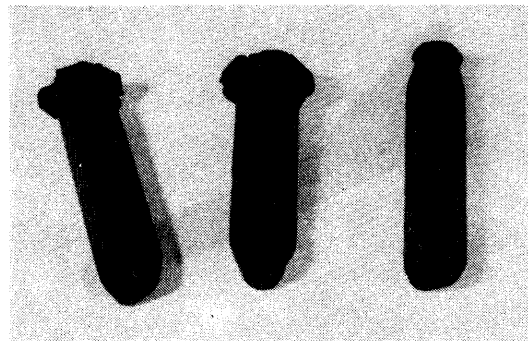
46. 107 × 22 文字面-「2」



38. 棹取用コース鉤

柄長 120 鉤部 240 × 94

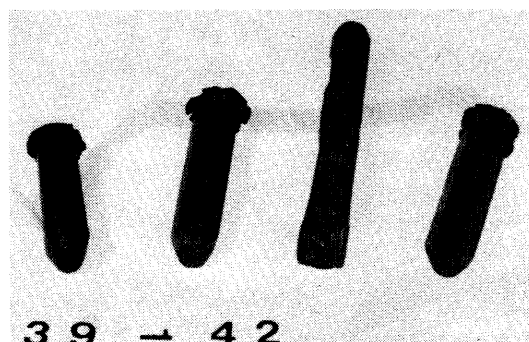
備考-34と同じ、赤ビニール・テープ巻き



47. 101 × 21 文字面-「6」

48. 110 × 21 文字面-「0」

49. 120 × 21 文字面-「9」



39 ~ 42

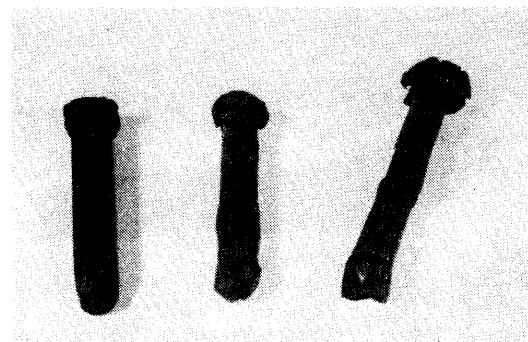
39~55. 金札製作用金型

39. 83 × 21 文字面-「0」

40. 106 × 21 文字面-「8」

41. 800 × 21 文字面-「九」

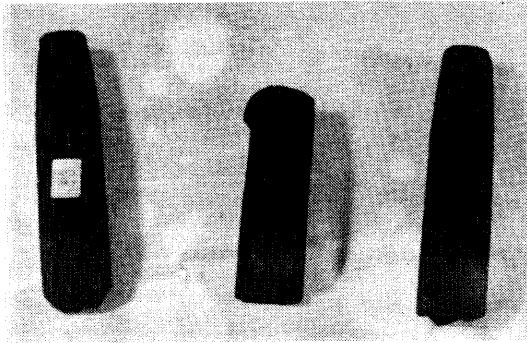
42. 120 × 21 文字面-「3」



50. 145 × 22 文字面-「㊦」

51. 144 × 22 文字面-「二」

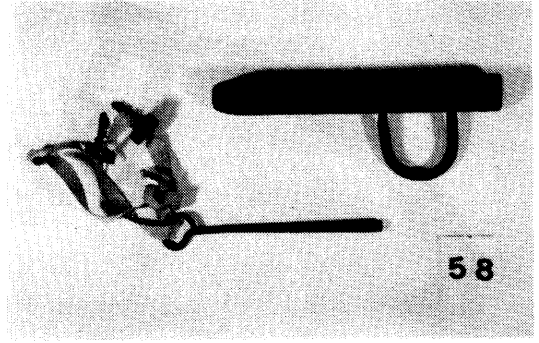
52. 177 × 20 文字面-「八」



53. 166 × 27 × 29 文字面 - 「四」

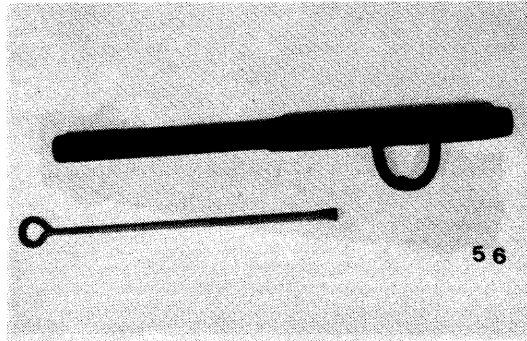
54. 110 × 26 × 28 文字面 - 「三」

55. 165 × 27 × 27 文字面 - 「一」



58. 鉄砲鍵

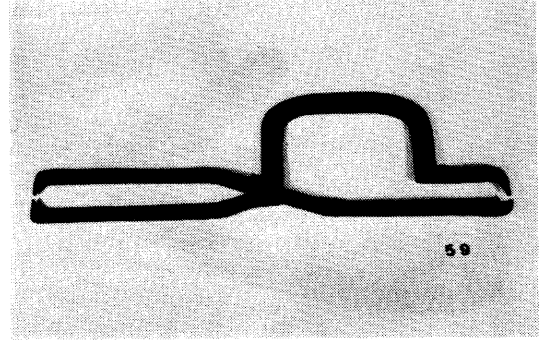
鍵部 152 錠部 203 × 27 φ



56. 鉄砲鍵

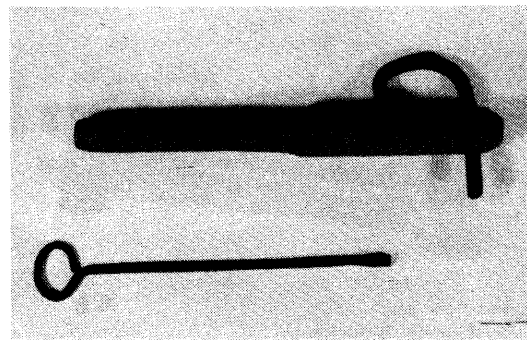
鍵部 300 錠部 440 × 25 φ

備考 - 坑内の道具箱その他に使用、手製



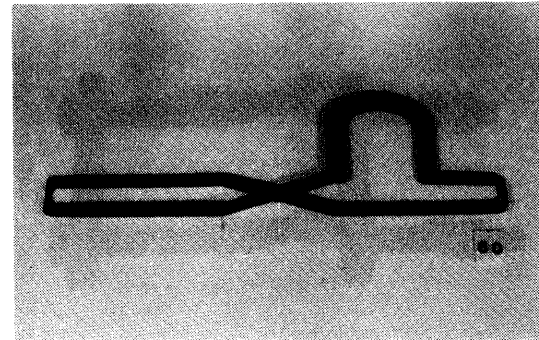
59. [坑内修繕方用ゲージ]

629 × 192



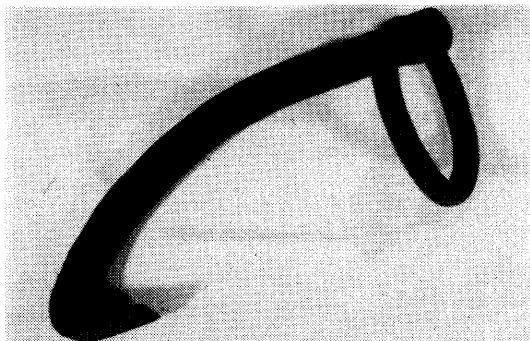
57. 鉄砲鍵

鍵部 203 錠部 245 × 27 φ



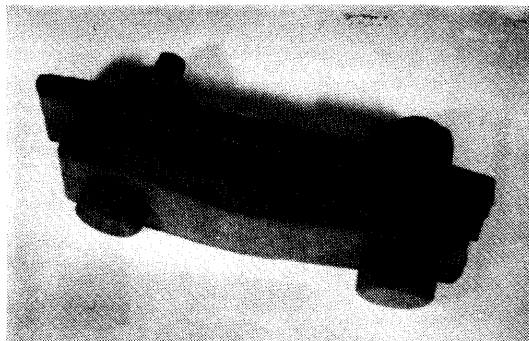
60. [坑内修繕方用ゲージ]

627 × 185



61. 棒廻し

鈎部 230 × 50 輪部 88φ



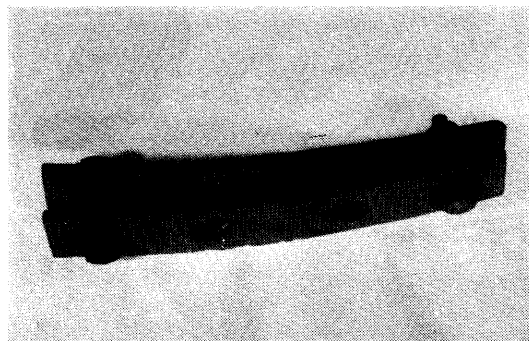
64. ページ

226 × 50 ボルト 95 × 35



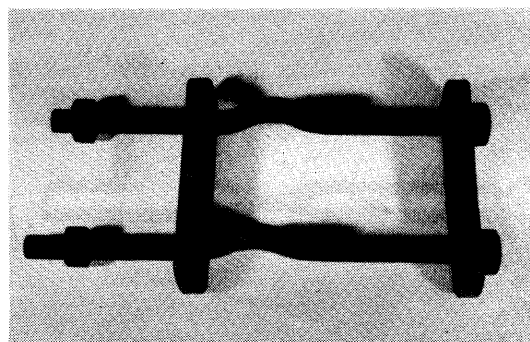
62. 棒廻し

鈎部 115 × 33 輪部 80 × 35



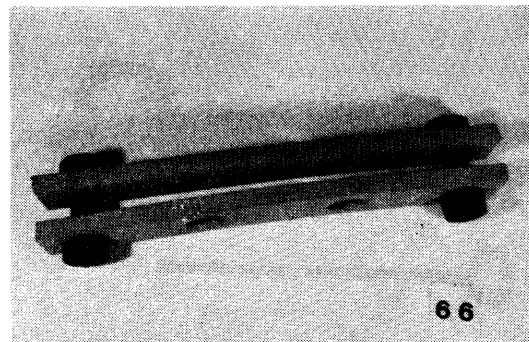
65. ページ

415 × 53 ボルト 95 × 30



63. 長尺鉄梁（かぐめ差梁）締め付け金具

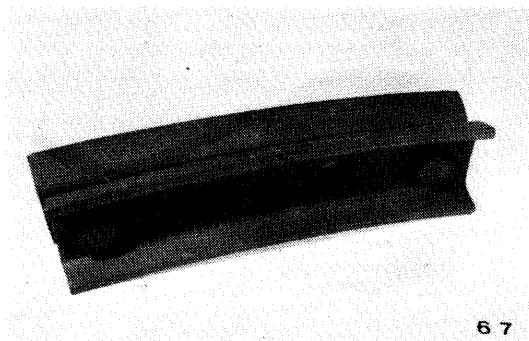
390 × 200



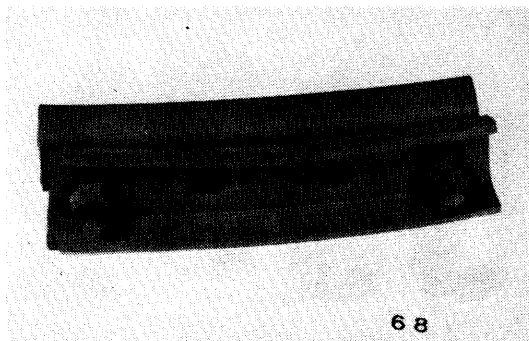
66. ページ

390 × 50 ボルト 95 × 35

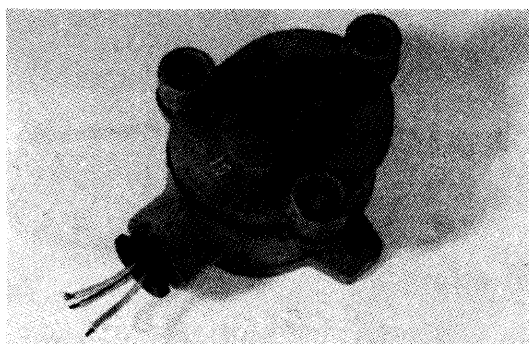
66



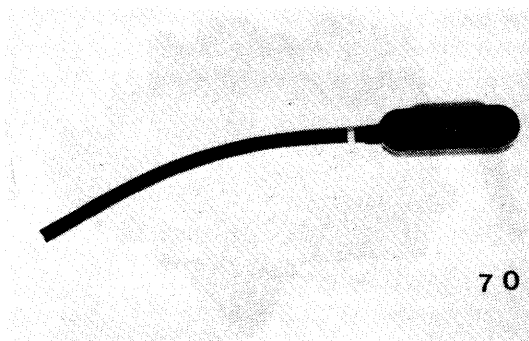
67. ベース
410 × 95 × 90



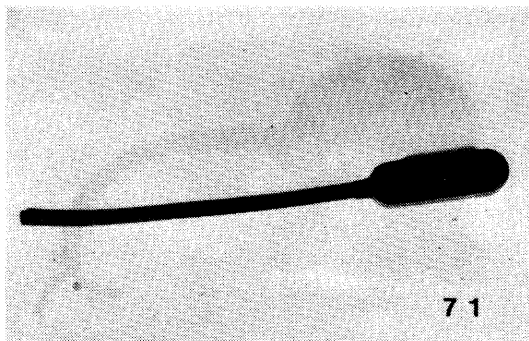
68. ベース
410 × 95 × 90
備考 - 67と同じ



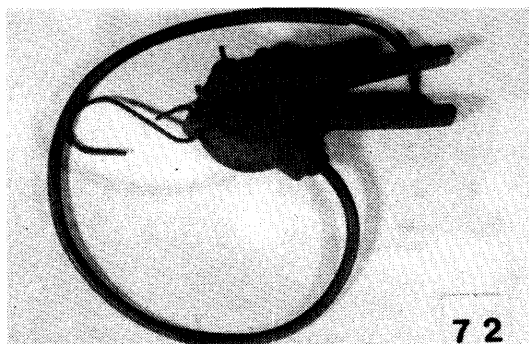
69. [耐圧型押釦開閉器]
172 × 98
製造 株式会社上野製作所



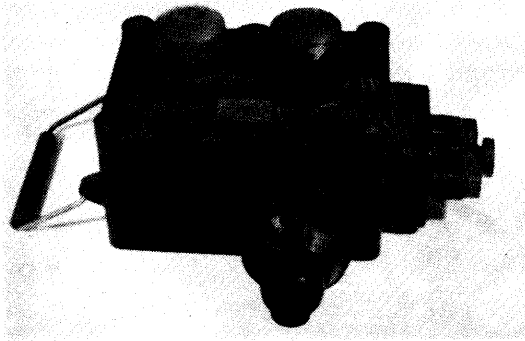
70. [信号用開閉器]
108 × 33 × 23 定格 150V, 5A 以下
製造 練馬製作所



71. [信号用開閉器]
108 × 33 × 23 定格 150V, 5A 以下
製造 練馬製作所

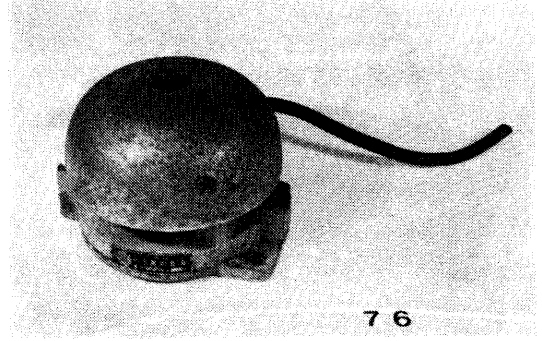


72. 耐圧電気信号開閉器
171 × 72 × 60
河野式 G-2型



73. Foot Switch

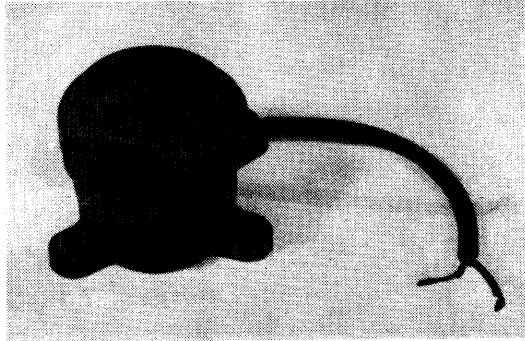
200 × 142 × 102 TYPE-FXX 250V 20A
MFG No.56-10
製造 HITACH LTD



76

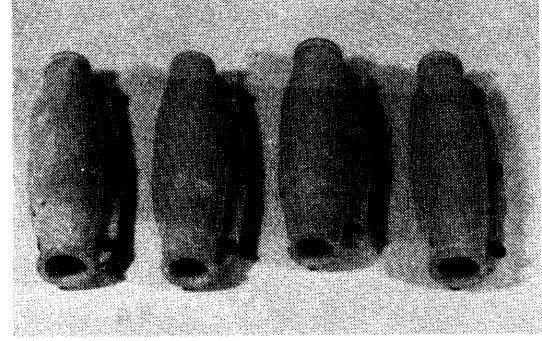
76. 耐圧電鈴

120 × 150 φ 交流25V
河野式 AB-4型



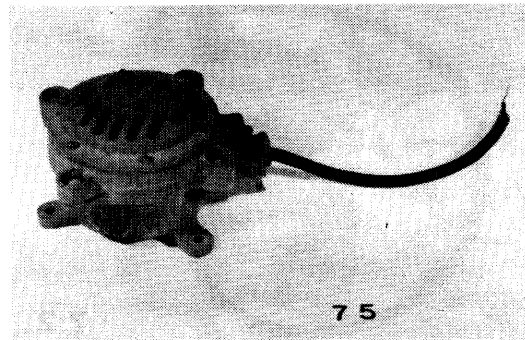
74. 耐圧プザー

90 × 90 φ 50V
河野式 AB-3型



77～80. プロテクター (ケーブルカバー)

180 × 56 φ 合成ゴム製
西村式 低圧用

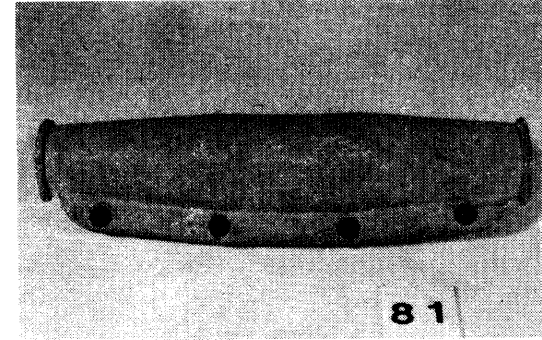


75

75. 耐圧防爆型プザー

92 × 120 φ 型式 PB 100V 30W
JIS 0901 No.48831

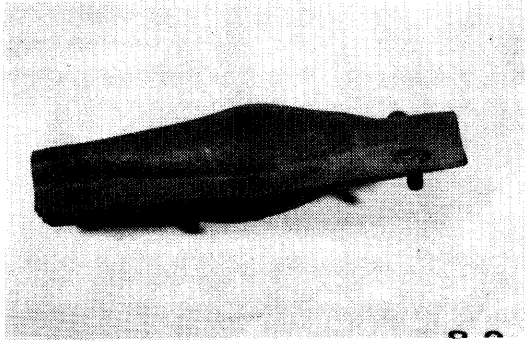
製造 株式会社上野製作所 昭和38年1月



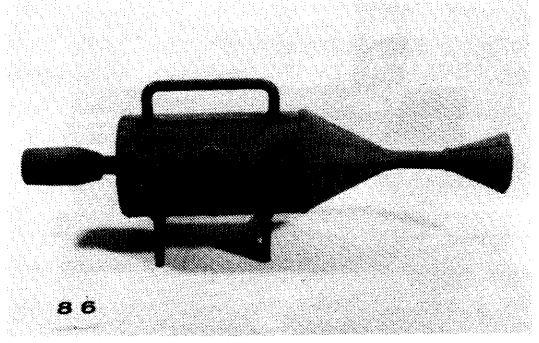
81

81. 西村式プロテクター

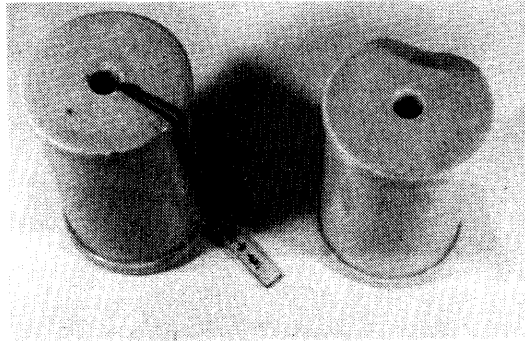
280 × 60 φ 合成ゴム製
低圧用



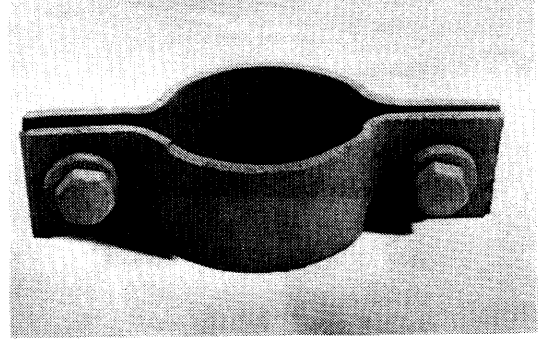
82. ケーブルプロテクター
225 × 80 × 70
金属製



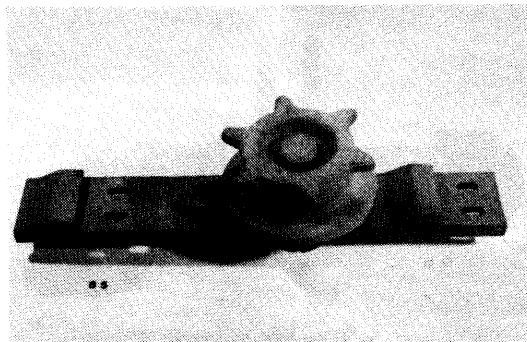
86. [噴霧器]
425 × 90 φ
備考-散水用か、詳細不明



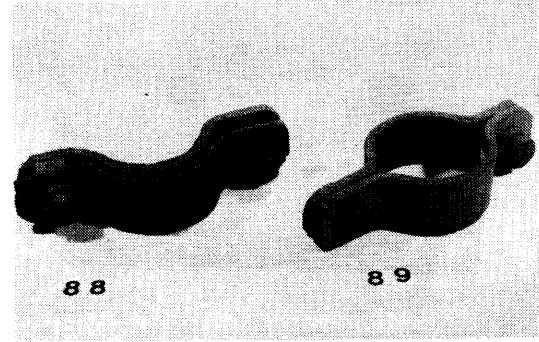
83~84. 導中車
235 × 150 φ
磁器製



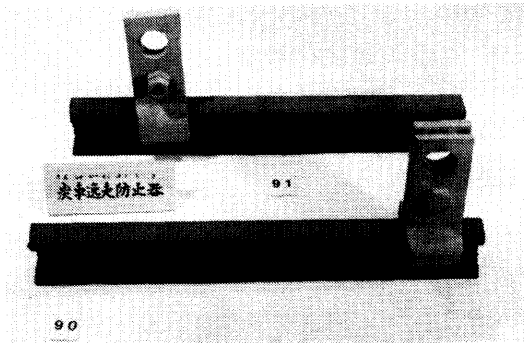
87. [キンチャクバンド]
238 × 64
備考-パイプ補修用か、詳細不明



85. カーブ・シーブ
取付座 855 × 134
回転部 (コンベイトウ) 105 × 275 φ



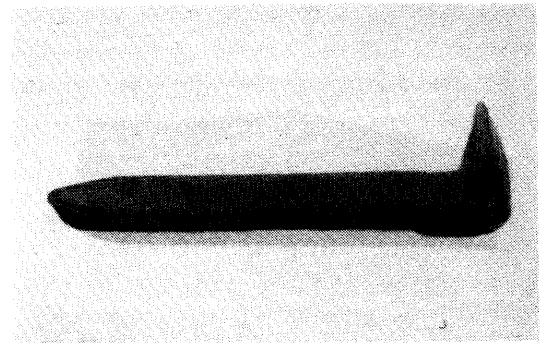
88~89. [キンチャクバンド]
88. 230 × 54
89. 230 × 52



90～91. 炭車逸走防止器

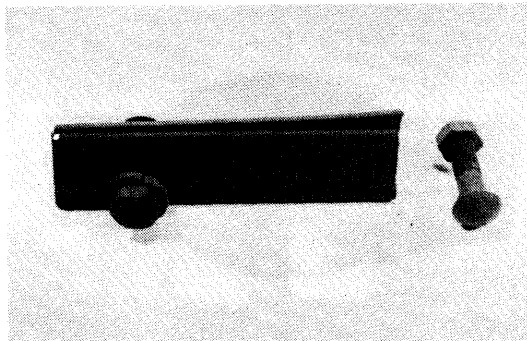
90. 205 × 105 × 80

91. 215 × 85 × 80



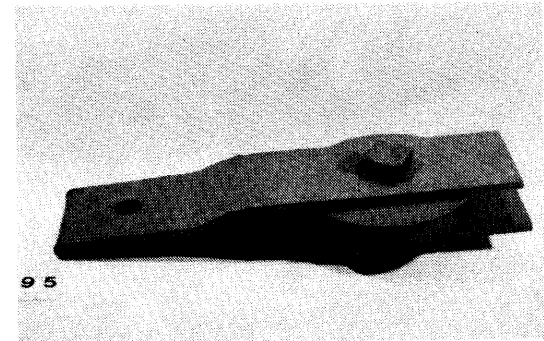
94. 犬釘

92 × 31 × 25



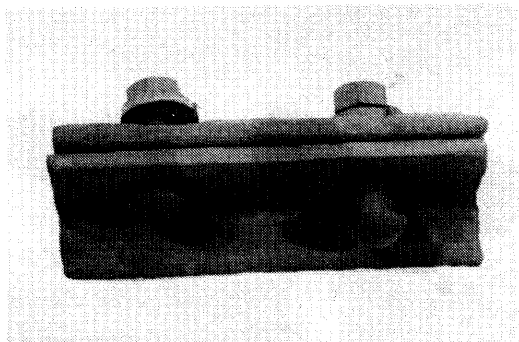
92. ベース

198 × 45



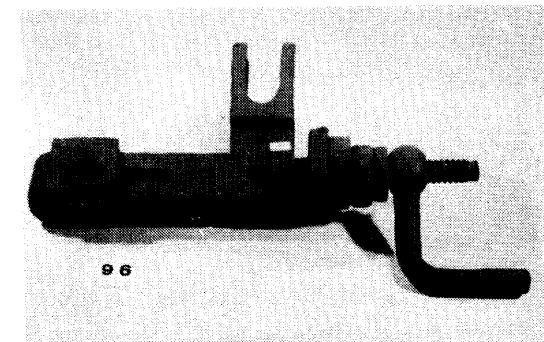
95. 滑車

取付座 458 × 98 滑車 168 φ



93. ベース

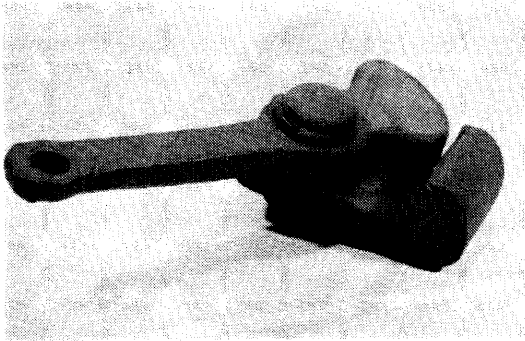
204 × 60 × 84



96. キャッチ・クリップ (カチ)

492 × 140

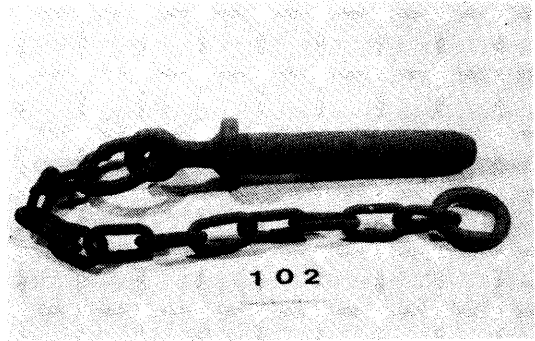
備考-下綱式エンドレス用



97. キャッチ・クリップ (カチ)

148 × 61

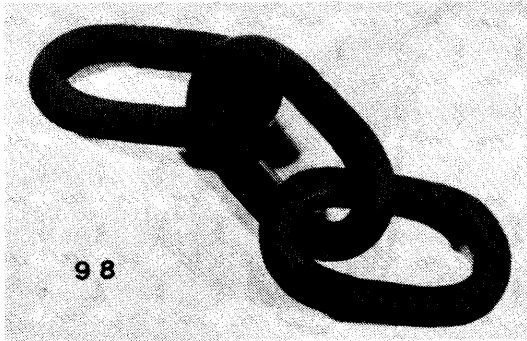
備考-上綱式エンドレス用



102. ピン

280 × 33φ

備考-炭車連結用



98. 炭車連結用三連鎖

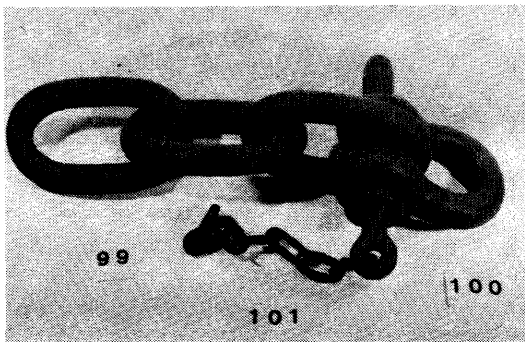
一環 208 × 125 32φ



103. 鱈口

185 × 90 × 125

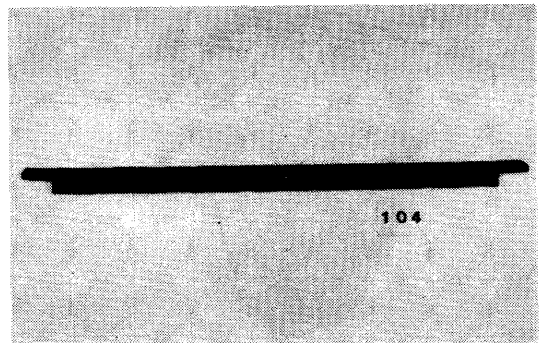
備考-炭車連結用



99. 炭車連結用三連鎖 208 × 125 32φ

100. 鱈口 185 × 90 × 125

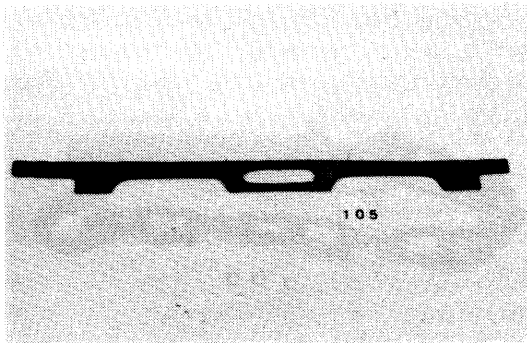
101. ピン 280 × 33φ



104. ゲージ

663 × 35

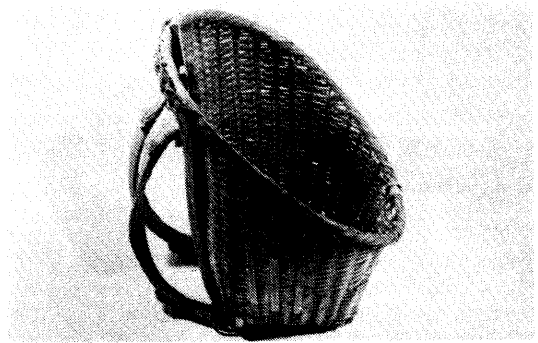
備考-車道ゲージ測定器



105. ゲージ

754 × 50

備考-車道ゲージ測定器

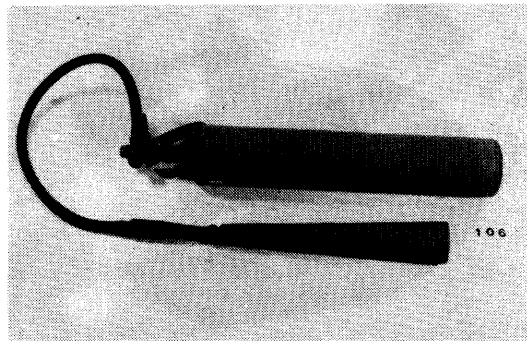


108. 背負籠

底部 230 × 350 開口部 600 × 580

高さ 550 本体 竹製

備考-背の部分に座をつける、負紐も座巻き

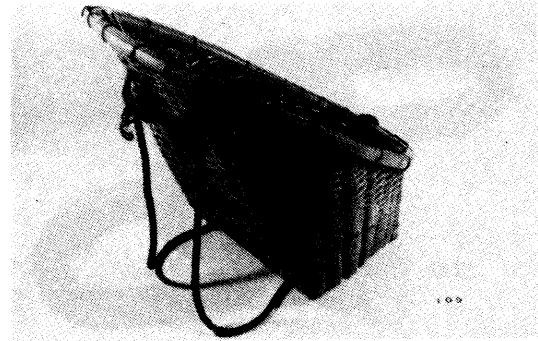


106. 消火器

本体 566 × 97φ ホース部 747+520

T P 250 C O₂ C F D -370846.1958

本体 金属製 先端部 ベークライト製

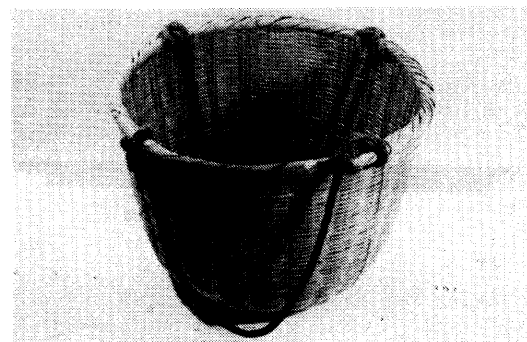


109. 背負籠

底部 270 × 400 開口部 660 × 650

高さ 610

本体 竹製 負紐 麻縄

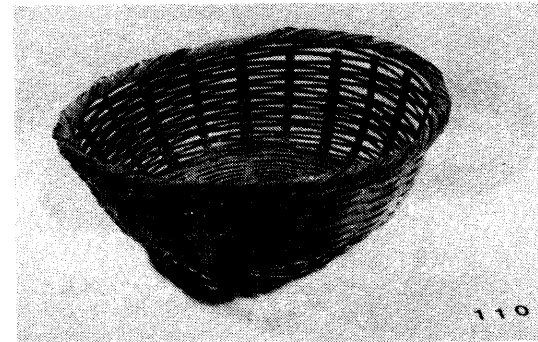


107. 負籠

上部 660φ 下部 430φ 高さ 460

本体 竹製 負紐 麻縄

備考-底部にタガあり



110. バイスケ

上部 400φ 底部 270φ 高さ 150

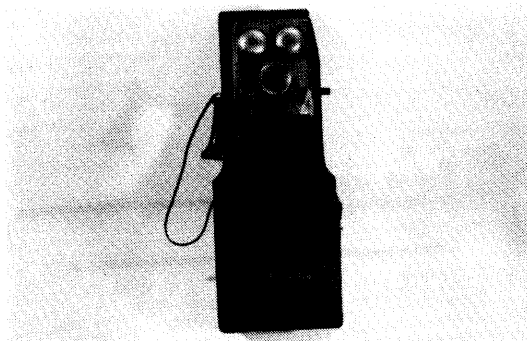
竹製

備考-名称は「バスケット」のなまり



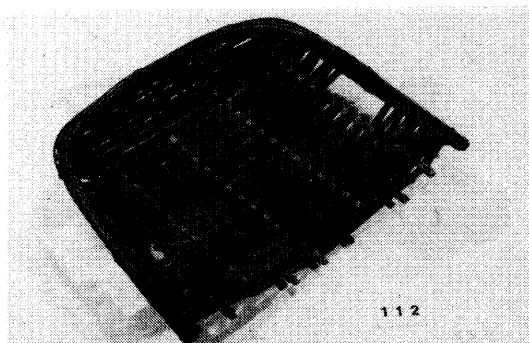
111. バイスケ

上部 400 φ 底部 270 φ 高さ 150
備考-竹製の籠に針金で十文字に補強、バック
漉いなどに使用



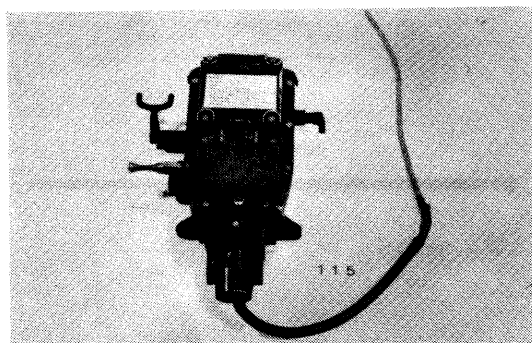
114. [磁石式壁掛電話機]

本体 703 × 215 × 140
製造 日本電気株式会社



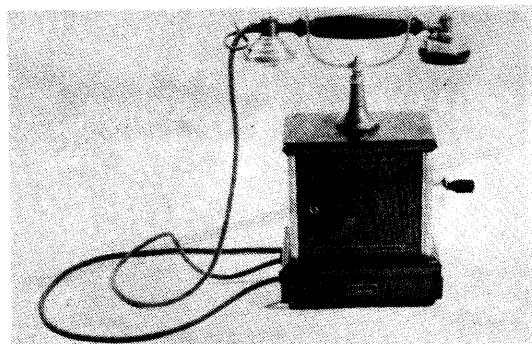
112. エ プ

505 × 380 × 100 竹製



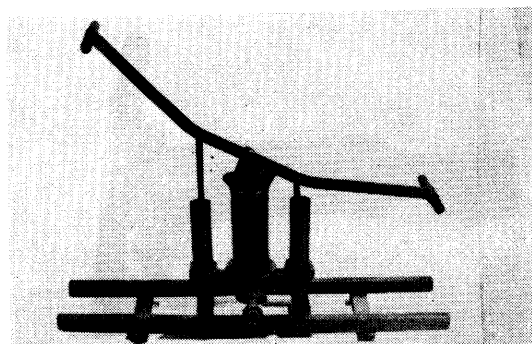
115. 防爆型磁石式電話機

本体 340 × 143 × 130 (受話器なし)
型式 MD466-1 製造番号 110
製造 沖電気工業株式会社 昭和45年10月



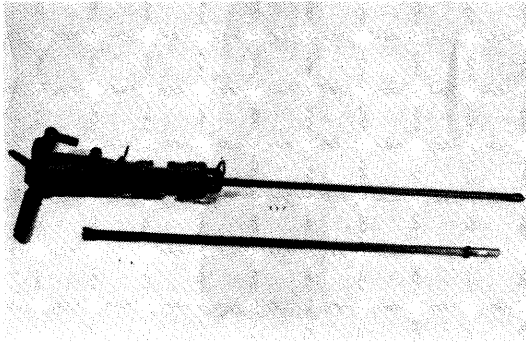
113. [磁石式卓上電話機]

本体 188 × 347 × 114
製造 日本電気株式会社



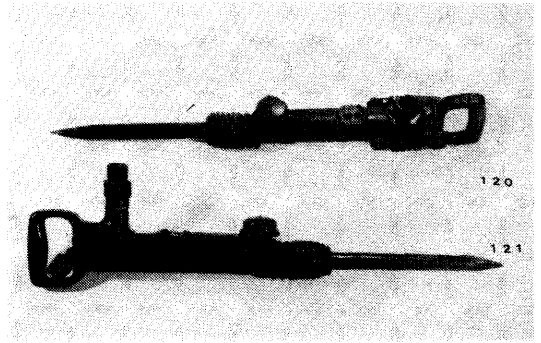
116. 手押しポンプ

本体 470 × 390 ハンドル 1180
備考-木製台座付



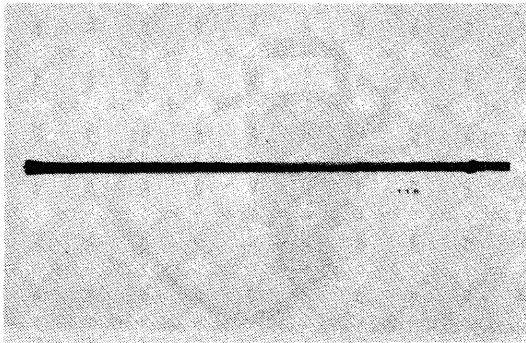
117. デムバー型鑿岩機

本体 560 × 467 鑿 990 × 22
製造 トーヨー



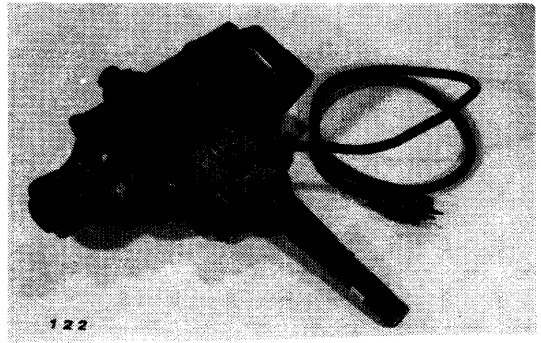
120～121. コール・ピック

本体 720 × 161 製造 トーヨー
120. CA7A A126-47
121. CA7A A140-34



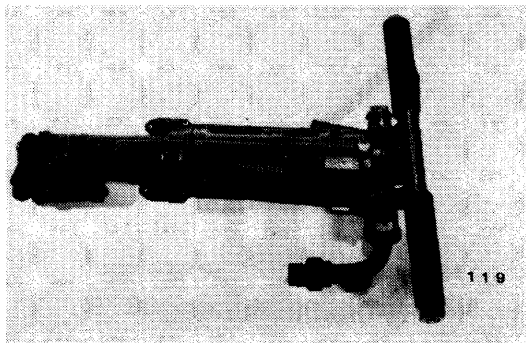
118. 鑿

1180 × 22
備考 - デムバー用



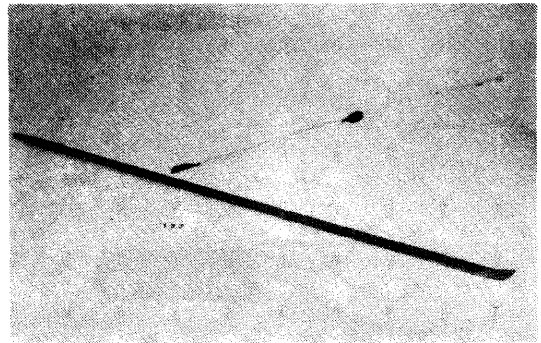
122. 電動式鑿岩機

590 × 480 × 220
NOECD 226 No. 4
備考 - 大谷伝氏提供



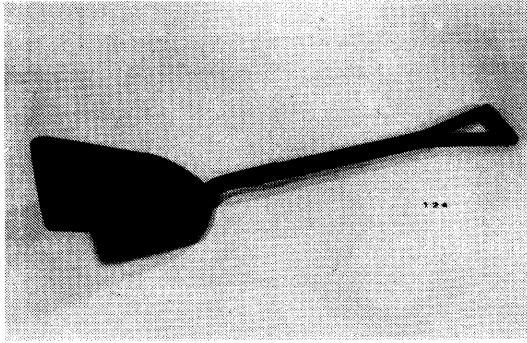
119. デムバー型鑿岩機

本体 570 × 470
TOYO TY24C E907-54

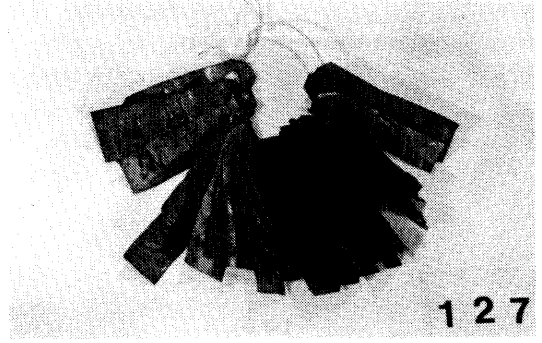


123. 金テコ

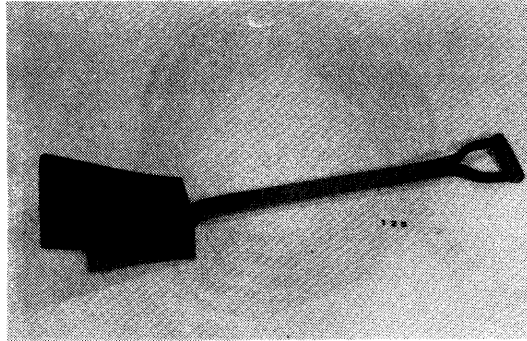
1420 × 23 φ



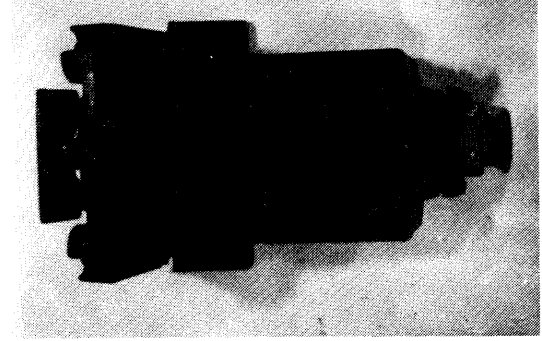
124. 採炭用スコップ
270 × 370 全長 1045



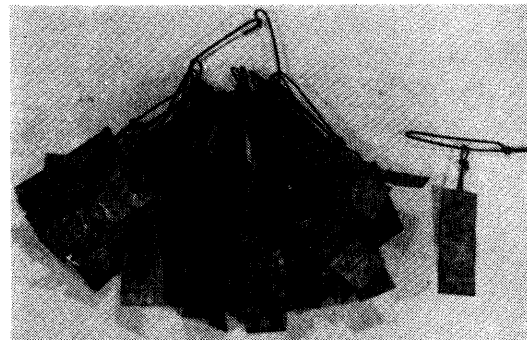
127. 金札
ブリキ製



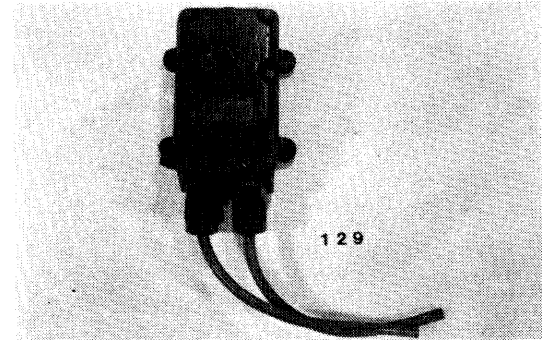
125. 採炭用スコップ
248 × 295 全長 995



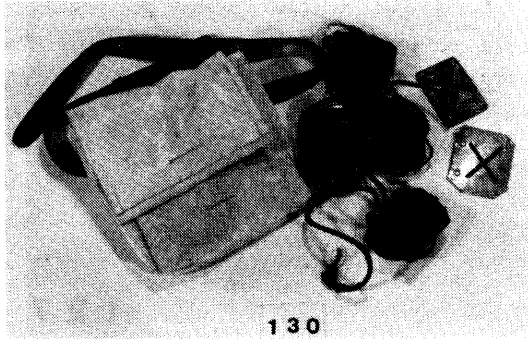
128. 防爆型開閉器
230 × 110 × 110 TYPE POKX-C2 JIS C0903
製造 YASKAWA ELECTRIC HFG.CO.,LTD.
備考 - EXPLOSION PROOF CONTROL SWITCH



126. 金札
ブリキ製
備考 - 二坑木製炭車用、付け替えを防止するために考案されたもの

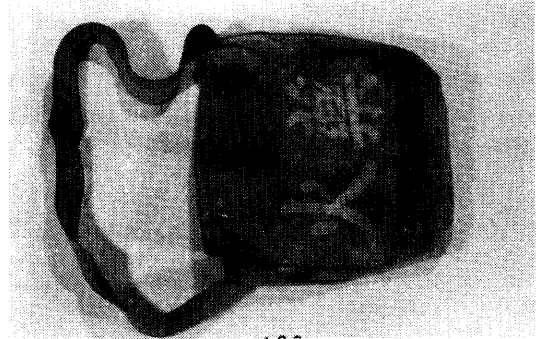


129. ノーヒューズ遮断器
256 × 117 × 120 30A フレーム 2P
PTS-615 No.27297-2 定格 250V 20A
製造 株式会社上野製作所 昭和45年 8月



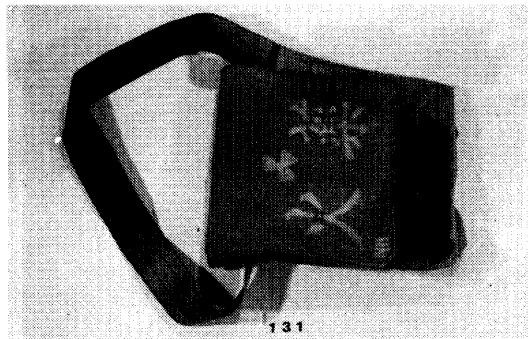
130. 発破警戒表示入袋

171 × 170 × 40 白色ビニール製、ベルト付
備考—ブリキ板に赤色テープ×印の発破警戒札、
棕縄、キャップランプ用赤色ビニールカバー入



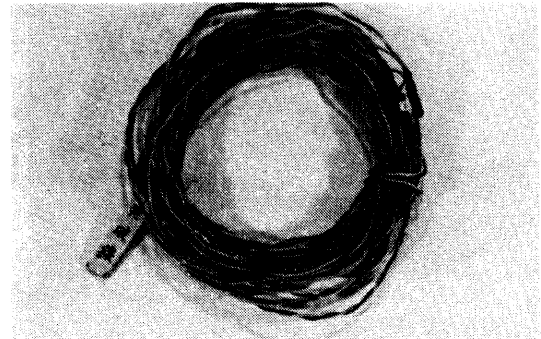
133. 火薬袋

320 × 255 × 110 肩紐 940 × 60
赤色帆布製



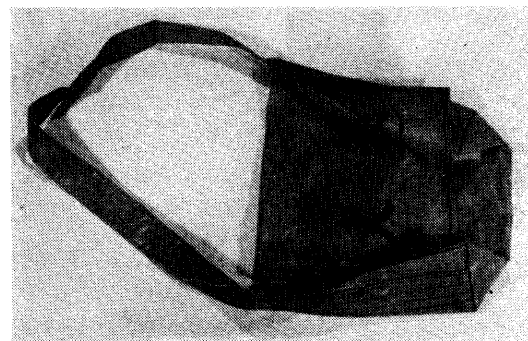
131. 火薬袋

320 × 255 × 110 肩紐 940 × 60 赤帆布製
備考—ブリキ板に赤色テープ×印の発破警戒札、
棕縄、キャップランプ用赤色ビニールカバー入



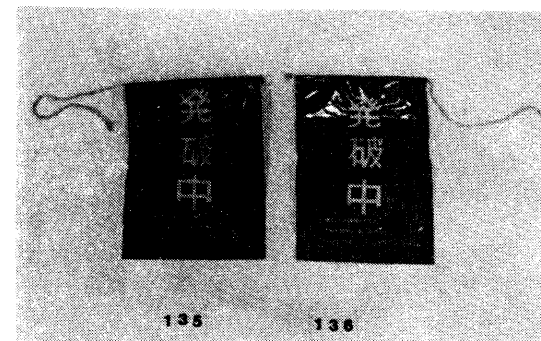
134. 発破線

3φ 紅白二色被覆電線



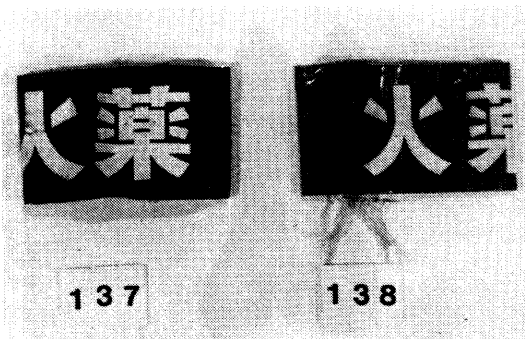
132. 火薬袋

340 × 290 × 110 黄色ビニール製



135～136. 発破警戒標

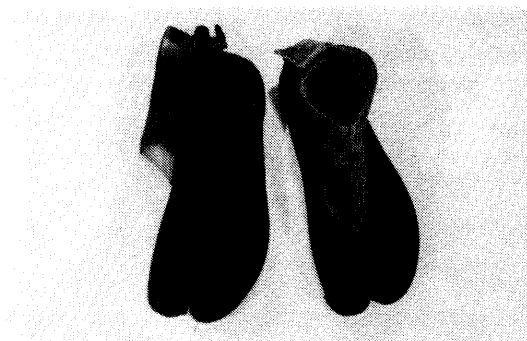
193 × 289
備考—赤ビニール地に白文字



137～138. 「火薬」の腕章

98×364

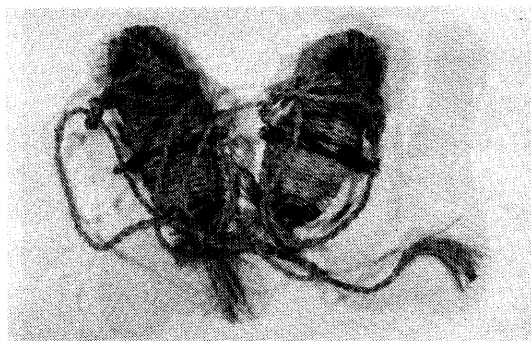
備考-赤色布にビニールカバーつき、火薬掛り
用腕章



141. 地下足袋

サイズ 10.7文 高さ 130

製造 アサヒ靴



139. ワラジ

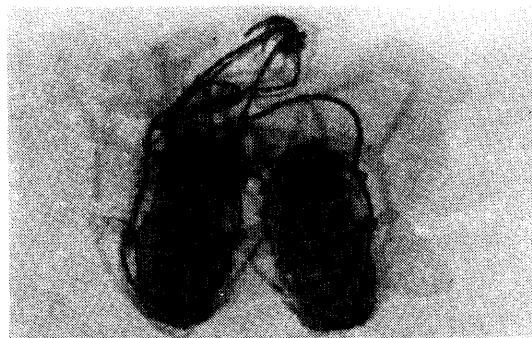
217×85



142. 地下足袋

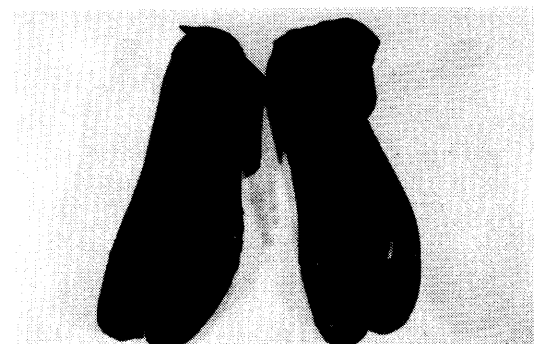
サイズ 25.5 高さ 130

製造 アサヒ靴



140. ワラジ

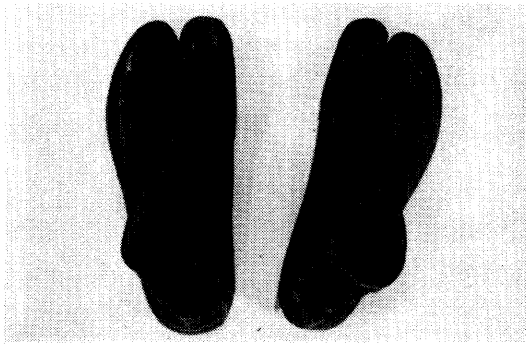
212×90



143. 地下足袋

サイズ 27.0 高さ 135

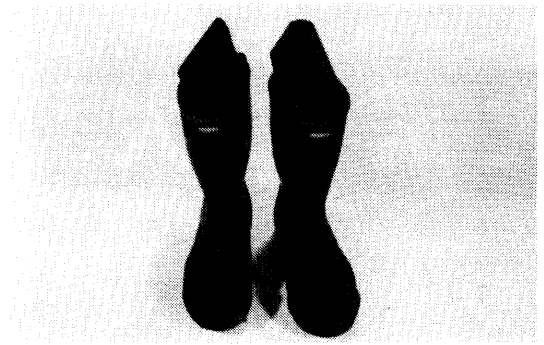
製造 アサヒ靴



144. 地下足袋

サイズ 27.0 高さ 135

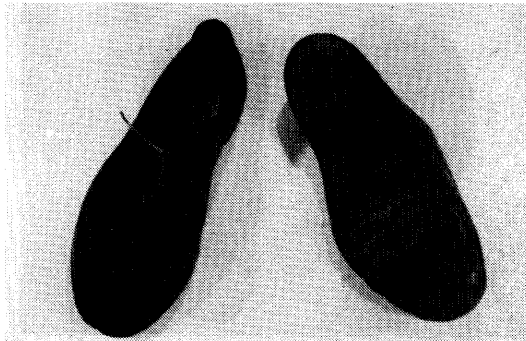
製造 アサヒ靴



148. 安全靴

サイズ 25.5 高さ 270+70

ゴム製



145. ゴム靴

サイズ 24.5 高さ 51

製造 アサヒ靴

備考-紐付



149~150. 安全靴

サイズ 25.5 高さ 260

ゴム製

備考-紐付



146~147. ゴム靴

サイズ 25 高さ 115

備考-上部破損

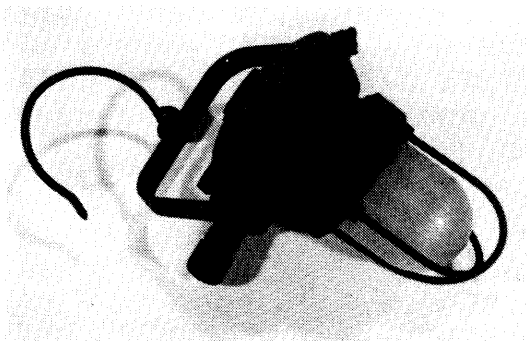


151. 安全靴

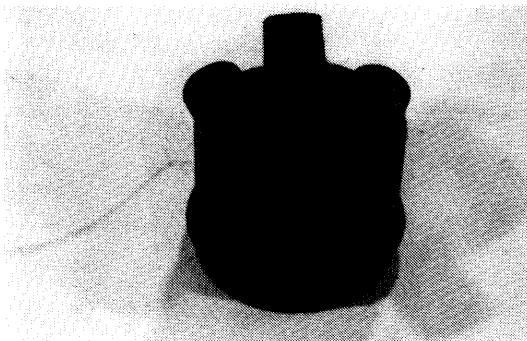
サイズ 不詳 290 × 110 高さ 260

革製

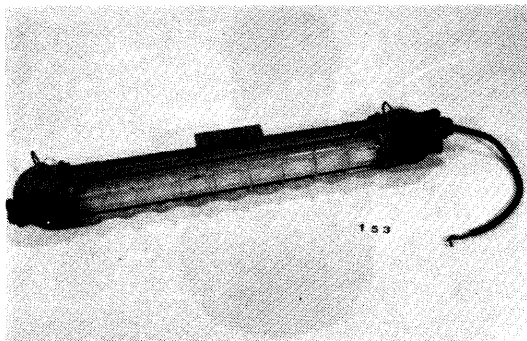
備考-紐付



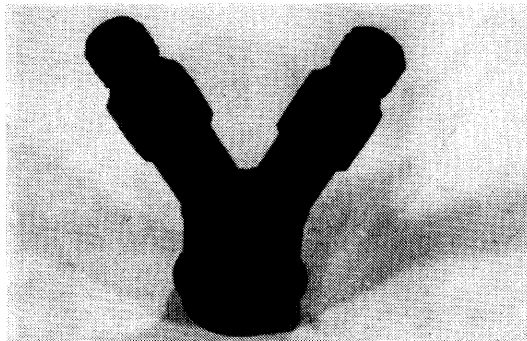
152. ターボ (圧気発電式坑内灯)
 230 × 173
 TYP 0450U Nr.800 12V 100W Baschg 1922
 製造 FRIEMANN & WOLF DUISBURG



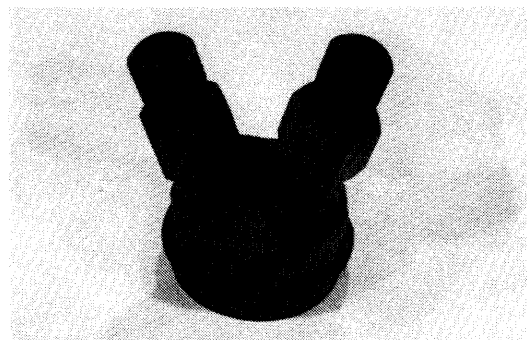
155. 生み出し
 本体 144 φ 枝部 32 φ
 備考-枝部4本



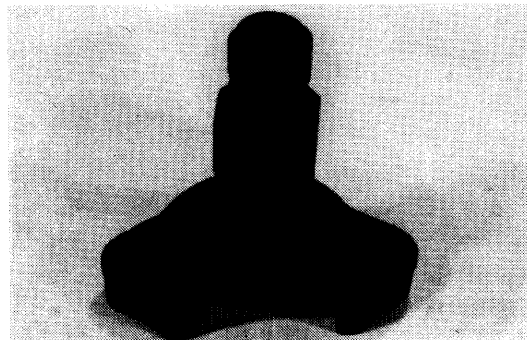
153. [防爆型蛍光灯]
 765 × 150



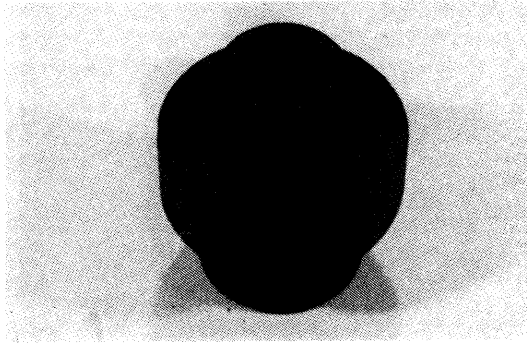
156. 生み出し
 本体 60 φ 枝部 23 φ
 備考-枝部2本、球状弁付き



154. 生み出し
 本体 89 φ 枝部 21 φ
 備考-本管から異径の管やホースなどを立ち上げるもの



157. 生み出し付きクラウン
 133 × 140
 備考-パイプ接続器具のクラウンに「生み出し」がついた物



158. [フィルター付き生み出し]
75×65φ
備考-フィルター内蔵



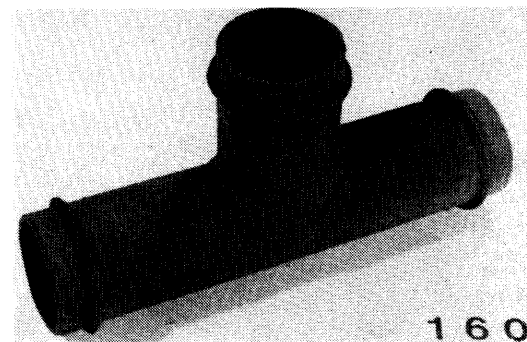
161. 生み出し
本体 96×115φ 枝部 47×61φ



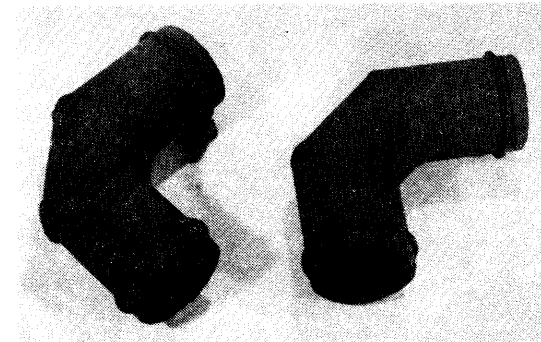
159. パイプ継手
58×32φ



162. 生み出し
本体 96×115φ 枝部 97×61φ



160. 生み出し
本体 257×60φ 枝部 70×60φ

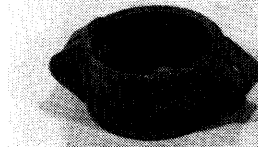


163~164. ベンド
130+120+130×180φ

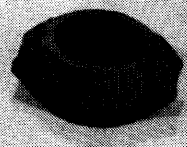


165

165. パイプ
507+57 × 34φ
備考-継手付き

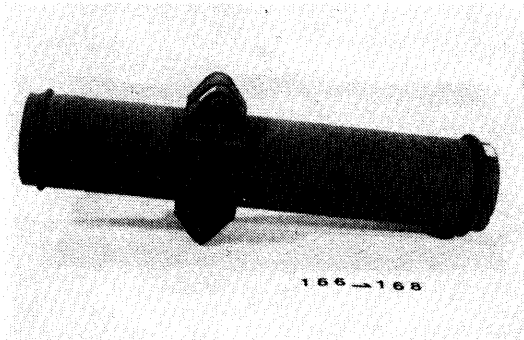


170



171

170~171. クラウン
170. 200×72 内径 115φ TK4C
171. 164×67 内径 93φ TK3C



166-168

166~168.
166.パイプ 218 × 114 φ
167.クラウン 205 × 75 内径 120 φ
168.パイプ 348 × 114 φ

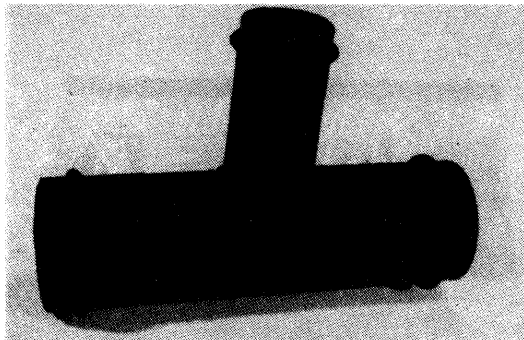


172

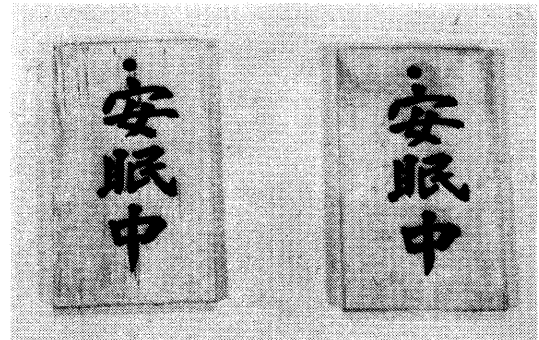


173

172~173. クラウン
172. 206×76 内径 117φ TK4
173. 127×58 内径 62φ TK2C
備考-ゴム製パッキング付



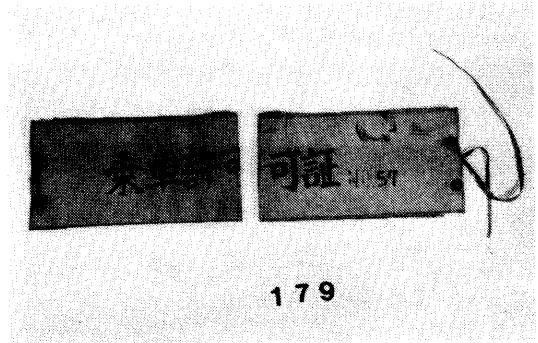
169. 生み出し
本体 297 × 89φ 枝部 109 × 61φ



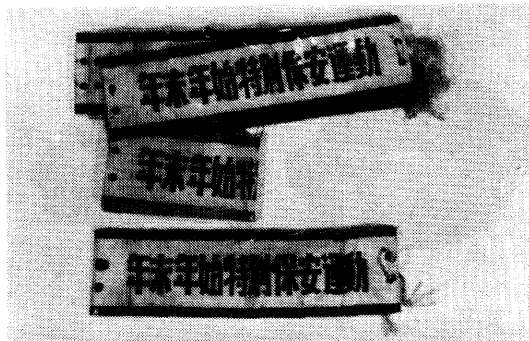
174~175. 「安眠中」の木札
195 × 114 × 10
木製
備考-水彩絵の具により、白地に黒文字



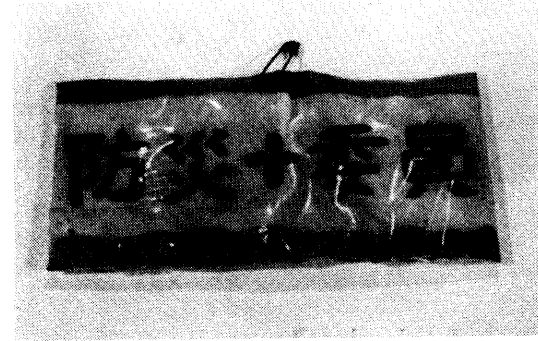
176. 「人車々掌」の腕章
 372 × 90 3枚
 備考-白木綿字に緑文字、ビニールカバー付



179. 「乗車許可証」の腕章
 367 × 91 2枚
 備考-黄色地ビニールに赤文字



177. 「年末年始特別保安運動」の腕章
 354 × 101 6枚
 備考-白木綿字に緑線、黒枠赤文字、ビニールカバー付



180. 「防災委員」の腕章
 172 × 91
 備考-白木綿地に黄色線と黒文字、ビニール・カバーつき



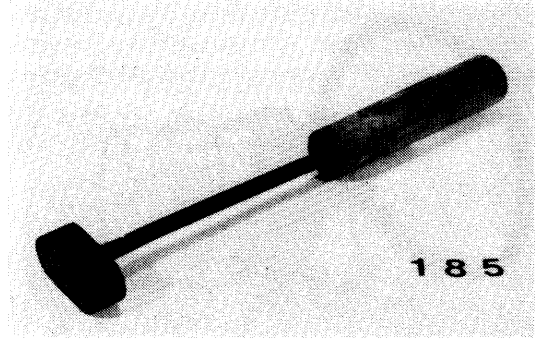
178. 「乗車許可証」の腕章
 367 × 91 3枚
 備考-白地ビニールに赤文字、ピン穴付



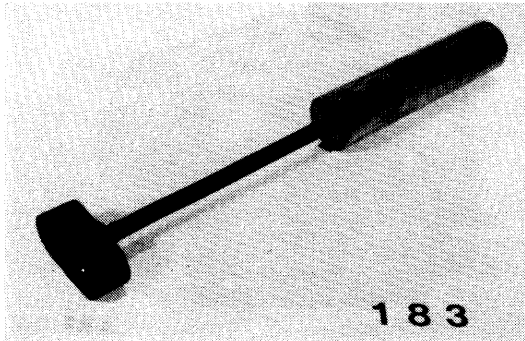
181. 「防災委員」の腕章
 172 × 91
 備考-白木綿地に緑線と黒文字、ビニール・カバーつき



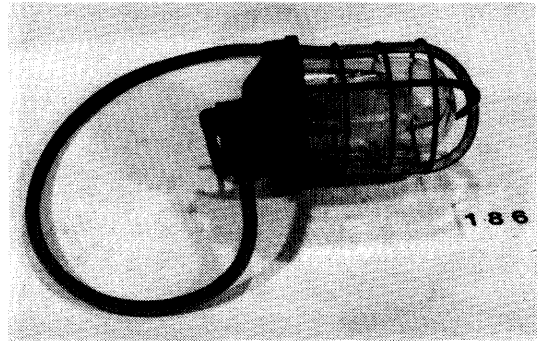
182. [鉄道用信号灯]
305 × 166 φ レンズ 116 φ



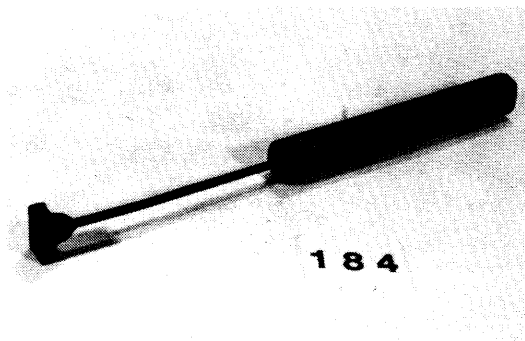
185. 焼 印
59 × 27 × 327
備考 - 印面は「新菅牟田坑」



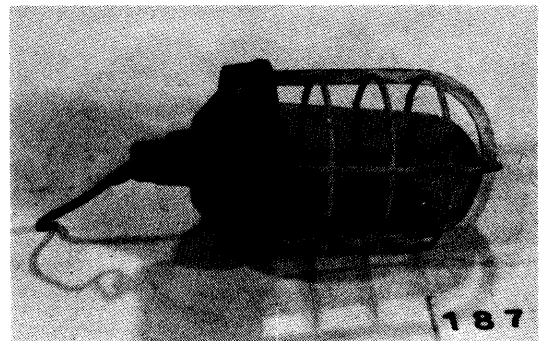
183. 焼 印
59 × 27 × 323
備考 - 印面は「新菅牟田坑」



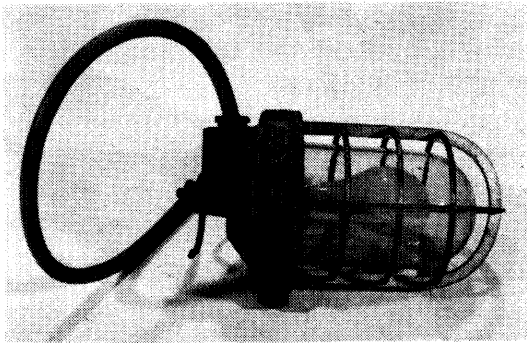
186. 防爆定着安全電灯
220 × 145 φ
49-2型



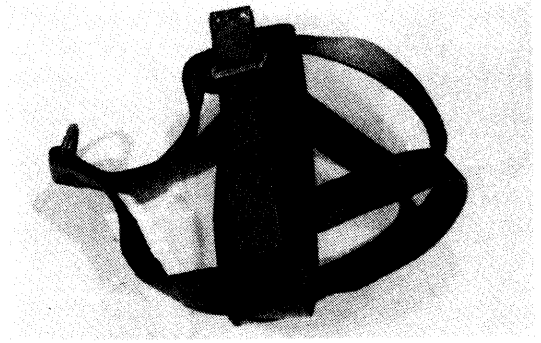
184. 焼 印
31 × 18 × 370
備考 - 印面は「新坑」



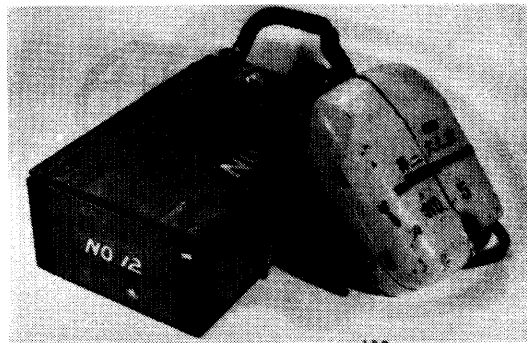
187. 防爆定着安全電灯
220 × 145 φ
49-2型



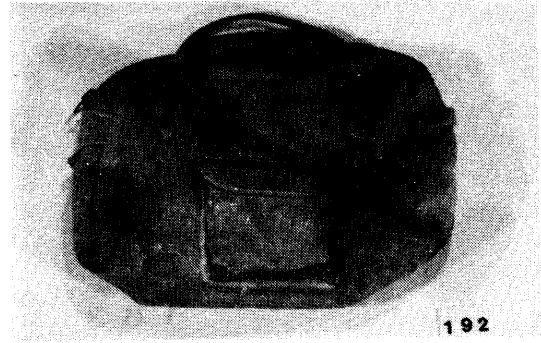
188. 防爆定着安全電灯
220 × 145 φ
49-2型



191. 救護隊着用ベルト
腰ベルト 980 脚ベルト 820 釣ベルト 460



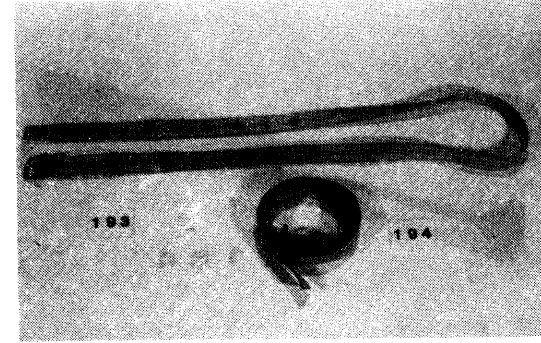
189. 酸素呼吸器
450 × 320
K G 130 第2大之浦 No 5 [箱はNo 12用]
製造 川崎航空機工業株式会社 昭和15年 4月



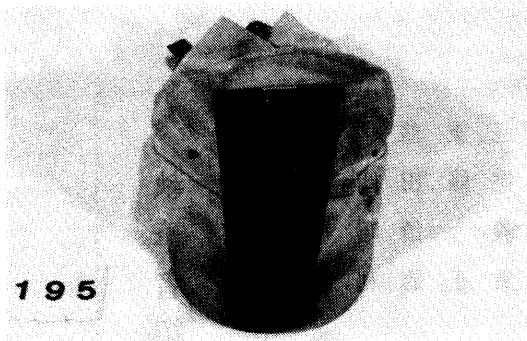
192. 救護隊着衣バッグ
400 × 295 × 145
帆布製



190. 酸素呼吸器
450 × 320
K G 130 第2大之浦 No 4
製造 川崎航空機工業株式会社 昭和15年 4月

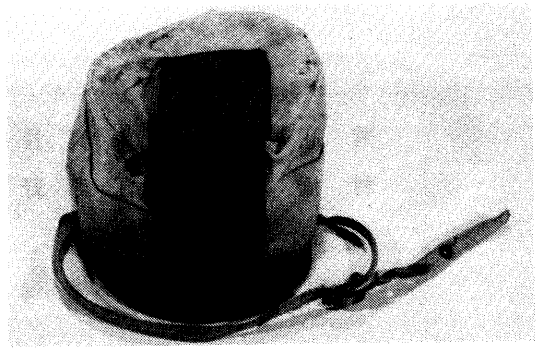


193~194. 救護服用ベルト
1500 × 30



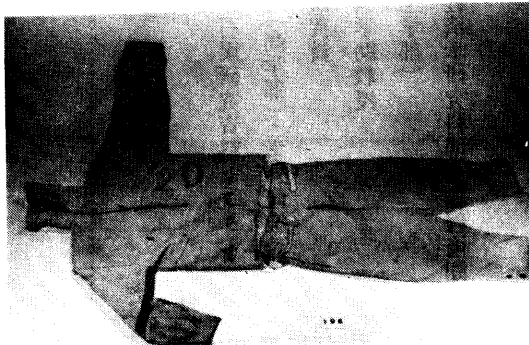
195. 救護隊用安全帽

備考-木綿製、ランプの取付座はスチール製、
内部に衝撃吸収マット入り



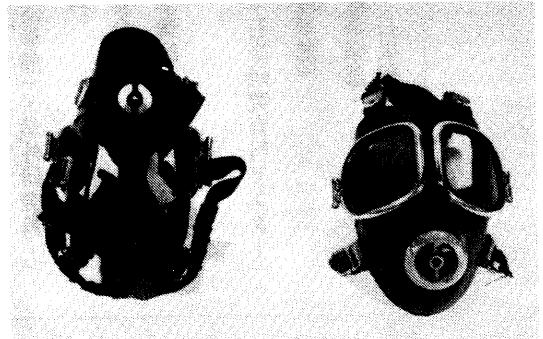
198. 救護隊用安全帽

備考-木綿製、ランプの取付座は金具付革製



196. 救護隊用上下着衣

備考-白地木綿製、新菅牟田坑のネーム付き

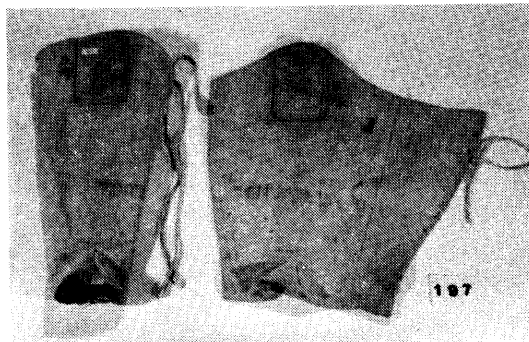


199~200. 救護隊用マスク

210 × 130

合成ゴム製 Mod 2-L

製造 KAWASAKI



197. 救護隊用脚絆

備考-白地木綿製、10枚鞋